LADY's SUPPORT BOOK 2020

プラスバイクで見つける、輝くわたし。

レディスサポートブック2020

TAKE FREE! ¥0



Recommended Bike Selection

Honda **CBR650R**	P.04
Honda **SuperCub C125**	P.08
SUZUKI **KATANA**	P.10
SUZUKI **GIXXER**	P.14
Kawasaki **Z400**	P.16
Kawasaki **Ninja 250**	P.18
YAMAHA **BOLT ABS**	P.20
DUCATI **SCRAMBLER SIXTY2**	P.22
HARLEY-DAVIDSON **STREET BOB**	P.24
INDIAN MOTORCYCLE **SCOUT BOBBER TWENTY**	P.26
KTM **390 DUKE**	P.28
KYMCO **GP125i VCBS**	P.30
LAMBRETTA **V125SPECIAL**	P.32
MUTT MOTORCYCLES **MASTIFF250**	P.34
FUKI PLANNING **FK310bb20**	P.36
ライディングウエアの選び方	P.38

New Wear

DUCATI	P.39
HARLEY-DAVIDSON	P.40
KTM / HUSQVARNA	P.41
MUTT MOTORCYCLES	P.42
CLEVER	P.43
KADOYA	P.44
KUSHITANI	P.45
NANKAI	P.46
PANDO MOTO	P.47
ROSSO STYLE LAB/URBANISM	P.48
SUGAR RIDEZ	P.49
WILD WING	P.50

バイクレディ、応援します!



Lady's Bike [レディスバイク]

レディスバイク特別編集

http://www.l-bike.com

制作　株式会社クレタパブリッシング
　　レディスバイク編集部
住所　〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 2F
電話　03-5777-7013(代)

produced by CRETE PLANNING BOX

バイクレディの知りたいと共感がある!!



『レディスバイク』
4月号(3月3日発売)は
全国の書店にて
好評発売中!
定価880円

みんな見てね♪ 公式SNSも更新中!

『レディスバイク』とは

次号9月発売予定

バイクレディのためのコンテンツが詰まった媒体です。女性だからこその悩みや疑問、また共感できることっていっぱいありますよね。そんな悩みや疑問を解決する企画を展開するとともに、コミュニケーションの場としても活用してもらえるさまざまなコンテンツを用意しています。女性として輝き続けられる楽しいバイクライフを一緒に作っていきましょう! 日々の疲れやストレスをいろいろ抱えるレディのみなさん、プラスバイクで輝く自分を見つけましょう!

株式会社クレタパブリッシング
〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 2F ☎03-5777-7013(代)











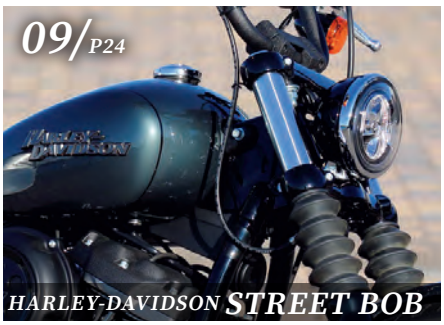




メーカーイチオシ！バイクセレクション



















文：栗栖国安・河野正士・先川知香・TOMO　写真：関野 温・増井貴光

価格は税 10%込



メーカーイチオシ! バイクセレクション 01

Honda CBR650R

スーパースポーツバイクを思わせる俊敏さと、ネイキッドの扱いやすさ、ツアラーの快適さをほどよく絶妙にバランスさせたようなバイク。気負わずスポーティな走りを楽しめ、街中も快適に駆け抜けます

問 ホンダお客様相談センター ☎0120-086819 HP http://www.honda.co.jp/motor/

広報さんのオススメポイント

●CBRシリーズの血統を感じられる、アグレッシブなスタイリングはライダーの所有感を満たしてくれます。

●アシストスリッパークラッチやHonda セレクタブル トルク コントロール（HSTC）などの装備が、ライダーの疲労軽減や安心感のある走りへ寄与しながらも、〝操る楽しさ〟を感じさせてくれます。

●スーパースポーツバイクを思わせる、高速域でのより鋭いエンジンの吹け上がりを感じさせるエキサイティングなサウンドは、〝走る歓び〟を満たしてくれます。



街乗りが快適なスーパースポーツ？

このCBR650Rは、スポーティなスタンダードネイキッドであるCB650Rと兄弟モデル。フルカウルを装備し、よりスポーティな雰囲気をただよわせています。少し前のCBR600RRほどのとがった、先鋭化したキャラクターではないロードスポーツモデルです。このクラスのスタンダードなネイキッドたちと比べれば、パワフルだしレーシーな姿をしています。フロントフェイスなどはホンダのトップスーパースポーツである現行のCBRシリーズと同じ顔つき。いかにも走りそうです！　でも、その性格はミドルスーパースポーツのキラ星であるCBR600RRよりずっとマイルド。その代わりに得ているのは、街中から峠道まで、ずっと気ラクな操作で従順に応えてくれる扱いやすさなのです。

まず、このエンジンはCB650Rと基本的に共通で、DOHCの直列4気筒。最高出力は70kW（95ps）／12000rpmとパワーも十分にあります。

ただ最新のミドルスーパースポーツは120ps前後の最高出力をたたき出します。それらのモデルとも大きな差があります。そこから生まれる加速力の違いは歴然としています。ただし、たとえスポーツバイクの世界でも、決してパワー至上主義ではありません。肝心なのはそのパワーを使えるかどうかです。今の技術だと、ピークを100馬力以下に抑えることで低中回転域に十分なトルクのゆとりを残すことが可能です。自由に走るため、不足するトルクを補ってエンジンを回し気味にしなくてはいけないというストレスも少なくてすみます。これが高回転域をメインステージに考えて懸命に稼いだ120馬力との違いです。

これを考えれば性格の違いもすんなりとわかると思います。バイクを元気よく走らせるための礎となるエンジンからして、このCBRは〝ほどよい〟のです。



通勤や通学にも使えちゃう実用的なロードスポーツモデル

CBR650Rがスポーティなのは見ためだけではではありません。このエンジンは直4ということもあり、とってもよく回るエンジンです。だけど高回転域を回したときだけ力が盛り上がるような感じはありません。兄弟モデルのCB650Rと同じように、低回転域でよく粘り、中回転域からトルクがあります。4～6速で3000～4000rpmも回していれば、街中でのクルマの流れに、ストレスなく普通に乗れちゃいますし、元気よく走行することもできる。スタンダードなネイキッドモデルと変わらない使い勝手のよさを持っています。

ただ、このカッコいい雰囲気を生んでいる前傾のライディングポジションは、渋滞の中ではCB650Rとくらべると多少疲れを感じるかもしれないですね。とはいっても、前出の本気スーパースポーツほどの強い前傾ではなくて、ずっとロード向き。スタンダードネイキッドに比べれば、もうちょっと腰や腕にストレスがかかるかな…くらいのレベルです。

今回の試乗車は、仕事など諸々の都合で、撮影を行なう数日前にお借りしました。けっこうな重量がある荷物を背負っていたのですが、都内の複雑な道を一日ウロウロしてもすごくラクでビックリ。わたしは普段からバイクを足にして都内をウロウロするのには慣れています。それでも、その慣れを差し引いても、コンパクトでスリムな車格はどんな場所でも扱いやすく、取りまわしもラクラク。それでいて、合流や追い越しといった加速が必要なシーンでは、軽やかな身のこなしをし、軽快に走りだします。重いリュックを背負ったまま、渋滞にもハマり、細かなストップ&ゴーも幾度となく繰り返した一日。それでも走った後に特段疲れたなって感じはなかったです。そのままブラっと軽いツーリングに行きたくなっちゃうくらい。クラッチ操作を軽くしてくれるアシストスリッパークラッチのおかげも大きいかな。この





も多分へっちゃらだと思うのです。

気軽に楽しくスポーツライディング

街乗りの快適さを随分と語ってしまったけれど、このバイクの楽しさはやっぱり高速やワインディングを走ってこそ実感できるもの。適度な前傾とスクリーンのおかげで高速走行時の風防効果は言わずもがな。この適度な前傾ってのがミソ。ハンドルはスーパースポーツのようにセパレートハンドルで、アッパーブラケット下部にマウントしています。だけど、角度が広めでバーエンドも垂れていない。だからガチガチの臨戦態勢に入るようなことなく、ハンドルにはスッと自然に手をそえられるし、Uターンもしやすくなっています。

このバイクのライポジは、ツーリングなどを楽しむ普通のライダーが、スポーティな走りを楽しもうとしたときに十分満足のいくものなのです。実際、峠道に入るとかなり元気によく走れます。切り返しがとにかく軽い。バイクをちょっと傾けるだけで、自然に次々と斬り込んでいくような、クイックなハンドリング。

でも神経質じゃなくて、とっても素直。それに低速から粘りのあるエンジンが、グイグイと引っ張っていってくれます。このハンドリングと相まって、さあ行くぞ！　って気合を入れたりなんかしないで、気負わず自然に楽しめる感じ。心に余裕を持って、走る楽しさを味わえるっていう感じかな。

このバイクは、乗りやすさ、扱いやすさ、そこそこスポーティな走りを楽しめるポジションを、いい塩梅でバランスしているのだと思います。街中を抜けて高速に乗り、一気に遠くまで。そうしたらクネクネした峠道やひらけたワインディングでスポーティな走りを堪能する。きれいな景色やステキなお店を見つけたらフラッと立ち寄って、道を間違えたらUターン。コレ、この一台で気軽にできちゃう。ガチガチのスーパースポーツが好きなライダーには物足りないかもしれないけど、少なくともわたしは十二分に楽しめる。

スーパースポーツとも違う。スポーツネイキッドの使い勝手のよさを持ったスポーティなスタンダードバイクだと思えばいいかな。乗り心地もいいから、シートバッグなどを取付けて、ツアラー的な使い方もできる。もともと運動性能もいいし、パワーもある。だから、同じようにツーリングしていても、ツアラーには真似できない俊敏な走りまでできる。そしてその使い勝手は神経質じゃない。そんなスポーツモデルです。その走りの魅力を楽しみながら、気ラクにいろんなところを走れる。ツーリング途中で出会ったワインディングを、ずっとスポーティな雰囲気を味わいながら楽しむことができる。これらがCBR650Rの光るところ。いろんなシーンでちょうどいいスポーツバイクだと思うな。

機能はシフトダウンしたときの急激なエンジンブレーキでリヤタイヤがホッピングするのを抑えてくれるもの。街中ではあまりないけれど、峠道などで3速から一気に1速までシフトダウンしてクラッチをポンと離したなんてときにスムーズに走ることができます。街中でもちょっとしたとき知らず知らずのうちにサポートしてくれたりするので、安心感が違うんだよね。

毎日の通勤や通学用にこのバイクをチョイスするライダーはあまりいないだろうけれど、そんな使い方



薄型で軽量な一体型デジタルメーター。白黒反転表示の液晶なので、昼夜を問わず視認性良好。トルコン表示やオンオフ、シフトアップインジケーターも付いています



タンク後方からシートにつながるラインはかなり細くしぼられています。おかげで走行中の体勢の自由度を高め、マシンのホールド感も良好。足つき性もいいです



セパレートハンドルはアッパーブラケットの下にマウント。しかし、角度が広めでハンドルエンドも下がっていないので、前傾姿勢は本格的なスーパースポーツより緩やかです



荒れた路面や急なアクセル操作をしたときなどに起こるリヤタイヤの空転を抑えてくれるトラクションコントロール機構を装備。スイッチでオン／オフ切り替えできます



テールが短めなので、荷物を積むスペースや、固定する場所も少なめ。タンデムシートの裏に荷かけ用のループベルトが格納されているので、必要に応じて引き出せば便利に使えます



フロントブレーキは、剛性や制動力の高いラジアルマウントキャリパーを採用。ローターはφ310㎜ダブルディスク。ABS標準装備。フロントフォークは倒立タイプです



モノショック仕様のリヤサスペンションは10段階に細かくプリロード調整ができます。乗り心地に影響する部分なので、好みなどに合わせて調整すれば、走りがより楽しくなるでしょう



ミドルクラスのスタンダードスポーツとしてはめずらしい、ハイコストな並列4気筒エンジンを搭載。4本のエキパイは並列4気筒の証。回せばエキサイティングな咆哮を響かせます

グランプリレッド











上半身が前傾になると腰が上がるので、そのぶん足つき性は悪くなります。でもシート前方がスリムなので、両足を下ろすとほんの少しカカトが浮くかな、というくらい。片足ならベッタリです



細身なので足つきはいいほうだと思います。シートのやや後方に腰をすえてステップの後ろに足をおろすのがバランスをとりやすく、足つきへの影響が少ないと感じました

COLOR VARIATION

マットパリスティックブラックメタリック



spec. ●全長×全幅×全高：2,130×750×1,150(㎜) ●軸間距離：1,450㎜●シート高：810㎜●車両重量：207㎏●エンジン型式・排気量：水冷4ストロークDOHC 4バルブ 並列4気筒・648㎤●最高出力：70kW(95ps)/12,000rpm●最大トルク：64N・m(6.5kgf・m)/8,500rpm●燃料タンク容量：15ℓ●燃費(WMTC)：21.3km/ℓ●タイヤサイズ：120/70-17(F)・180/55-17(R)●価格：105万6,000円(税10%込)
※グランプリレッドは3万3,000円高

シチュエーションを選ばない〝ほどほど〟が愉しい





スポーティなモデルらしく、シートのクッションは若干固めな印象。表皮はすべりにくい素材なので、ホールド感がよく、長時間走行しても疲れにくい。赤いステッチがアクセント



タンデムシートの下には、スーパースポーツにはあまりない、広めのスペースがあります。ETC車載器や工具類を収納するのには十分で、まだ余裕があるくらい



洗練されたスタイルが新たな時代を予感させる

メーカーイチオシ! バイクセレクション 02

Honda SuperCub C125

初代をオマージュしつつ洗練さを加えたスタイリングと最新の装備が、スーパーカブシリーズ最上位モデルに恥じないただずまいとなるC125。もちろん長い歴史に鍛え上げられた実用性もしっかりと生きてます

問 ホンダお客様相談センター 0120-086819 HP http://www.honda.co.jp/motor/

spec. ●全長×全幅×全高：1,915×720×1,000(㎜) ●軸間距離：1,245㎜ ●シート高：780㎜ ●車両重量：110kg ●エンジン型式・排気量：空冷4ストロークOHC 単気筒・124㎤ ●最高出力：7.1kW(9.7ps)/7,500rpm ●最大トルク：10N・m(1.0kgf・m)/5,000rpm ●燃料タンク容量：3.7ℓ ●燃費(WMTC)：66.1km/ℓ ●タイヤサイズ：70/90-17(F)・80/90-17(R) ●価格：40万7,000円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●初代スーパーカブを彷彿させるデザインに、流れるような車体のボディラインが、クラシカルでありつつも、赤いシートと相まってモダンさを感じさせます。

●Honda SMART Keyシステムやデジタルとアナログが融合したメーターなど、上質感を追求した装備と作り込みが所有する喜びを満たしてくれます。

●フロントブレーキには、125ccエンジンの動力性能に対してより安心感のある制動力を確保するディスクブレーキとしました。

スタイリッシュながら高い実用性を合わせ持つ

2017年に全世界で1億台以上の販売を突破し、翌2018年には誕生60周年を迎えたスーパーカブ。ほかを寄せ付けない記録を打ち立てた日本を代表するモデルの一つです。従来、新聞配達やソバ屋の出前といった用途に使われるビジネスモデルというイメージの強い車両なのですが、60年前から変わらない特徴的なクラシカルで、丸目の愛らしいスタイルが女性にも人気となり、









遠目からはシートが大きく広く見えるかもしれないけれど、低いのと前方が絞られているので安心の足つき。車体は驚くほど軽いので、またがったまま前後に動かすのもラクラクです



シートは肉厚でボリュームもあり、高さもこの排気量にしては高めな感じ。実用車として使われることが多いから、へたりにくさを重視しているのかも。視線が高くていいです

ビジネスモデルの枠を超えた存在になっています。

ご存知の人もいるかと思いますが、現在〝カブ〟という名前がつくモデルは、50cc、110cc、125ccの3排気量でラインナップされています。そして、今回紹介するC125は、先進性と上質感を追求した最上位モデルとなっています。

一番の特徴は原点回帰ともいえるそのカラーリングを含めたスタイリングです。初代モデルC100を彷彿させるデザインやカラーリングがC100を知る人には懐かしく、知らない人には斬新に映ることでしょう。とくにカラーリングは、当時の色味を忠実に再現するのではなく、オマージュしつつ今の時代に映える配色にしているあたりが絶妙です。

ヘッドライトの下、シート下の左右、レッグシールドの内側左右に、それぞれ立体エンブレムが付いていて、とくにレッグシールドに付いているオールドウイングマークは、限られた現行モデルにしか採用されていないモノです。このような細部のこだわりを感じさせる作り込みが、オーナーの所有欲を満たしてくれることでしょう。

もちろん現行モデルなので、機能面には最新の装備を採用しています。動力系は電子制御によって理想的な燃料供給を行なうことで低燃費かつ環境に配慮するPGM-FIを採用。その結果、実数に近いといわれるWMTCモードの燃料消費率は66・1㎞／ℓで、ガソリンを満タンにすれば運転の仕方にはよりますが240㎞くらいは走れちゃう計算になります。

またヘッドライト、テールランプ、ウインカーと全灯火器類にはLEDを採用しているし、メインキーはキーシリンダーにキーを差し込むことなく解除操作が可能なHonda SMART Key システムになっています。さらにホイールはアルミキャストホイールを採用して今風になっているだけではなく、チューブレスタイヤを採用しています。

使い勝手のよさはそのままに、スタイリッシュさをさらに増すことで、このC125は、スーパーカブというブランドをさらなる高みへと持ち上げた感があります。そう、スーパーカブというブランド自体をカテゴリーへと昇華させたと言っても過言ではない1台といえるのです。



ホンダ・スマートキーシステムを採用することで、キーを差し込むことなくダイヤルスイッチを回すだけで起動することができます。アンサーバック機能もあり、アラームも



すべてをデジタルにせず、アナログメーターをを組み合わせるあたりがユーザーの想いを汲んでいます。液晶には走行距離、時刻、燃料残量が表示されます



シートはシート下右後ろに設置されたボタンスイッチを押すと開けられます。下はガソリンタンクとなっていて、ヒンジ部の左右にヘルメット用のフックがあります



シートは前側が細くなっているので、停車時に足を下ろしやすい形状。表皮はステッチを見せることで質感を高めています。色は初代を思わせる赤系になります



初代C100のキャリアを連想させるコンパクトなかわいらしいキャリアが標準装備されています。乗車定員2名なので、ここに座ってタンデムすることも可能ではあります



シート下右サイドの水色のところがカバーになっていて、シート下ガソリンタンク上面のスイッチを押し込むと開く仕組み。書類＋α程度のスペースが確保されています



COLOR VARIATION

パールニルタバブルー





メーカーイチオシ! バイクセレクション 03

SUZUKI KATANA

40年ほど前に登場した初代カタナは、個性的なルックスと扱いやすさから世界中で人気を集め、多くのライダーを虜にしました。そんな伝説のバイク〝カタナ〟が新型KATANAとして登場しました

問 スズキお客様相談室 0120-402-253 HP https://www1.suzuki.co.jp/motor/

蘇った伝説のバイクはストリートファイター!

かつて、初代のカタナはその斬新なデザインで世界に衝撃を与えました。1980年にドイツのモーターショー（ケルンショー）で発表されたそれは、ターゲットデザインというチームが描いた近未来的なイメージスケッチをそのまま現実の市販車にしたかのような姿でした。しかもスズキがベースにしたのは、当時最速レベルのフラッグシップだったGSX1100E。

低くて垂れ下がったセパレートハンドルに盛り上がったタンクを組み合わせた姿はロボットみたい。そのタンクに抱きつくようなイメージでまたがるライダーの姿はとってもレーシーで、攻撃的な姿に見えたに違いありません。それでいて、その姿形、強力なパワーからは想像がつかないほど、あらゆるシーンで扱いやすいバイクだったそうです。形だけでなく、その走りも魅力として世界的な大ヒットになったのです。これで初代カタナは伝説となりました。

当時の多くのライダーを虜にしましたが、その後発売された排気量の異なるモデルも含め、20年ほど前にKATANAと名を冠したすべてのモデルの販売が終了。それでも熱狂的なファンは健在で、とくにGSX1100SにはカワサキのZ1同様、これを崇拝する熱烈な信者が大勢います。

さて、この新生カタナはそんなブランドを冠したモデル。デザイナーも違うけれど、その外観にはカタナのテイストがただよっています。遠目に見ても、すぐに〝カタナだ!〟とわかるほど個性的なルックス。なのにレトロな印象はまったくなく、現代から見ても近未来的なイメージをたもっているのはすごいこと。

もちろん中身は今どきの最新バイクです。エンジンは現在のスズキのフラグシップモデルであるGSX-R1000をベースに、ストリートで扱いやすいようチューニングがほどこされた並列4気筒DOHC4バルブエンジン。低回転域ではズドン!と力強く飛び出すようなトルクがあり、高回転域までぐいぐい引っ張っていく伸びのよさがあります。ハンドルバーはかつてのカタナと違い、幅広いセミアップのテーパーハンドルを採用。カタナっぽくないんだけど、スズキいわく、デザイン面での〝カタナらしさ〟をくずさず、現代のスポーツバイクに仕上げるため



蘇る伝説か、新たなる伝説の誕生か



広報さんのオススメポイント

●ひと目で"KATANA"とわかる、独自性の高いシャープなスタイリングが魅力的です。純正アクセサリーでもドレスアップが可能です。

●スーパースポーツゆずりのエンジンは、低回転域での力強いトルクと高回転域でのパワフルなエンジン特性をもち、スポーツライディングが楽しめます。

●エンストしにくくする"ロー RPMアシスト"を装備しているので、発進時や渋滞時の低速走行、Uターン時には落ち着いて走り出すことができます。

バーハンドルになったそうな。そして、その結果、ライディングポジションは上体が起きて、広げた腕でハンドルを押さえ込むような感じになります。

そんなライポジと瞬発力抜群のトルクフルなエンジンとが組み合わさって、走りはやんちゃなストリートファイターって感じ。車重は215kgでパワーは148psもあり、リッタースーパースポーツクラスのスペックになっています。それが街中から扱いやすいような体裁になっているわけです。俊足なリッタースポーツでいながら、プログレッシブスロットルを採用して、スロットルの開け始めはスムーズにパワーが立ち上がり、中開度以降は力強い加速へとつながり、元気のいい走りが爆発するのです。

まず、音が迫力モノ。身体の芯に響くような低くて太い排気音が気分を高揚させ、遊び心をくすぐられます。だからついつい開ける…あれよあれよと速度が乗る…その繰り返しになるかもしれません。なかなかイケイケな印象を受けます。

だけどとがってばかりいるバイクではありません。ちゃんと普通のバイクです。ハンドリングも素直で、扱いやすいスポーツネイキッド。のんびり走っていても、さあ行くぞ！ってスロットルを開ければ、どこからでもついてきてくれる頼もしさがあるのです。初代のカタナには乗ったことがないので、聞きかじった情報と想像でしかないけれど、モデルチェンジとか進化とかではなく、バイクの立ち位置や性格まで別のバイクと言ってもいいんじゃないかな。それぞれその時代のフラグシップモデルをベースに扱いやすくアレンジし、カタナという個性的な衣をまとったバイクってイメージ。初代のカタナを知らないからそう感じるのかもしれないけどね。だから、かつてのカタナが好きだったライダーからは、その面影を求めるなら賛否が分かれるかもしれないなって気がします。

カタナという個性をまとうフレンドリーな一台

完全なる今どきの新しいバイクだと考えれば、それだけでカタナは個





性的で楽しいバイク。だいたい、最近のバイクってみんな乗りやすいと思うんです。昔のバイクは、曲がらないとか、止まらないとか、すぐ壊れるとか言われるモノもアレコレあったみたいだけど（どれだけ昔の話だ！）、今はそんなバイクってまずありません。それどころか、より安全に、乗りやすくするためのサポート機能が付いているモデルもたくさんあります。とくにパワフルなリッタークラスのスポーツモデルでは当たり前になってます。

最新バイクである新生カタナにもいろいろ付いています。ＡＢＳはもちろん標準装備だし、トラクションコントロールシステムも3段階の感度とオフに切り替えられるようになっています。路面のコンディションが違ったり、万が一！ってことがあったときにも安心感が全然違うよね。それから、発進時や低回転走行時にエンジン回転の落ち込みを緩和してくれる〝ＬＲＰＭアシスト〟という機能も搭載しています。スタートするときだとかＵターンをするときに、クラッチをつないだらうっかりエンスト…そんなときにバランスをくずして立ちゴケ！　なんて経験をした人は少なくないでしょう。体格的に不利な女性ライダーならなおさらのこと。そんな〝うっかりエンスト〟をフォローしてくれるのです。あくまでちょっとフォローしてくれるものと考えて、安心しすぎちゃダメだけど…。さらに、スリッパークラッチという、急激に段飛ばしでシフトダウンしたりして強烈なエンジンブレーキがかかったときなんかにリヤタイヤが暴れるのを抑えてくれる機能も付いています。この機能のおかげで、クラッチレバーの操作が軽くなるというれしい効果もあるのです。

ほかにもまだまだたくさんの技術が詰まっているんだけど、そんなサポートしてくれる機能がアレコレ付いているから、バイクに乗ることへのハードル、とくに体力的に不利な女性でも大型バイクに乗るってことへのハードルがものすごく下がったんだと思うな。そして、同じカテゴリーでバイクをチョイスするとき、車種による違いってのが少なくなって、だんだんと似たり寄ったりになってきてしまうと思うんだよね。機能や性能、技術、バランスだとかいろんなものを複合的に絡めていくと、似てきちゃうのはわからなくもない。いいことなのか悪いことなのか感じ方いろいろだろうけどね…。

でも、バイクってやっぱりほとんどの人にとって趣味の乗り物じゃない？　だから、みんなと同じじゃつまらないでしょう。そんなところにきて、このカタナはキビキビした走りが光るリッターストリートモデルという顔、それにルックスにおいてこれ以上ないほど強烈な個性を放つカタナテイストをまとっています。これが魅力でしょう。カタナの伝説を受け継ぐモデルとして乗るもよし、個性的な最新のバイクとして乗るもよし。どちらにしても、〝おっ！〟っと、一目置いて振り返られるようなカッコいいバイクだと思うな。



フロントブレーキはφ310㎜のダブルディスクフローティングローターとラジアルマウントのキャリパーを組み合わせることで、熱歪みに強く、強力な制動力を発揮します



ハンドルバーは幅広で一文字に近いパイプハンドルを採用しています。中心部分が太く、グリップ部分は細いテーパータイプなので、剛性を持たせつつ、振動も少なめ



ブレーキレバーのグリップからの距離は6段階に調整することが可能。アジャスターは数字のついたダイヤル式なので、わかりやすいうえに調整も簡単です



コンパクトなフル液晶のメーターは、輝度の調整が6段階に変更できます。イグニッションをオンにしたときに出る〝刀〟のアニメーションがオーナーにとっては憎い演出でしょう



リヤサスペンションはプリロード調整可能なリンクタイプモノショックを採用。ストロークが63㎜あり、軽快で安定感のある走りに役立っています



シートの下にはヘルメットを掛けられるフックがあります。左右両側に設置されているので、干渉することなくヘルメットを2つ付けることができ、タンデム時にも便利です



シートのクッションはやや硬めだけれど、前方が細く絞られているのでホールド感は良好です。一部車体と同色の切り替えがかつてのカタナをオマージュしています



シャープに切れ込んだタンクカバーのデザインは、カタナの個性をつかさどる重要なポイントになっています。しかしそのぶんタンク容量が12ℓとやや少なめです


ミスティックシルバーメタリック







ハンドルはワイドで腕が広がります。シートは硬めで丸みを帯びているので、ニーグリップがしやすい形状になっています。足つきは、両足を下ろすと足指の付け根までがつきます



シートは細身に作られていて、足をまっすぐ下におろすことが可能。右足をステップに乗せた状態で、多少重心を左側に寄せれば左足は土踏まず手前まで着きます

COLOR VARIATION


グラススパークルブラック

spec.●全長×全幅×全高：2,130×835×1,110(㎜)●軸間距離：1,460㎜●シート高：825㎜●車両重量：215kg●エンジン型式・排気量：水冷4ストロークDOHC4バルブ 並列4気筒・998㎤●最高出力：109kW(148ps)/10,000rpm●最大トルク：107N・m(10.9kgf・m)/9,500rpm●燃料タンク容量：12ℓ●燃費(WMTC)：19.1km/ℓ●タイヤサイズ：120/70-17(F)・190/50-17(R)●価格：154万円(税10%込)

個性派なルックスとは裏腹にフレンドリー





タンデムシートの裏には、ループ状のベルトが格納されています。後ろに荷物を積む時だけ引き出して使えるようになっているので、見ため的にもスマートです



タンデムステップとそのステーはフレームと同色でスポーティかつスッキリとしたデザイン。ステーの先端は荷物の積載時にフックとして機能するようになっています



スポーティさの中に光る高い実用性もポイント

メーカーイチオシ! バイクセレクション 04

SUZUKI GIXXER

パッと見、スポーツテイストの強い印象を受けるジクサー。その装備はスポーティさを追求してますが、加えて実用性をしっかりと見すえたパッケージになっているところが大きなポイントなのです

問 スズキお客様相談室 0120-402-253 HP https://www1.suzuki.co.jp/motor/

spec.●全長×全幅×全高：2,020×800×1,035(㎜)●軸間距離：1,335㎜●シート高：795㎜●車両重量：139㎏●エンジン型式・排気量：空冷4ストローク OHC 2バルブ 単気筒・154㎤●最高出力：10kW(14ps)/8,000rpm●最大トルク：14N・m(1.4kgf・m)/6,000rpm●燃料タンク容量：12ℓ●燃費(WMTC)：51.0㎞/ℓ●タイヤサイズ：100/80-17(F)・140/60-17(R)●価格：35万2,000円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●3月4日にフルモデルチェンジ。WMTCモード値51.0㎞/ℓのすぐれた燃費性能を持つ、150ccロードスポーツモデルです。

●新たにフロントにABSを装備し、スイングアームマウントリヤフェンダーや、コンパクトで薄型なLEDヘッドランプを採用しました。

●139㎏の軽量ボディとスリムになった新しいシートにより、小柄な方も不安なく気軽に乗っていただける1台です。

より熟成されたコンパクトスポーツ

ジクサーという不思議な名前、その語源はスズキのGSXという大型スポーツバイクブランドにあります。長年海外ではGSXを〝ジクサー〟と呼んでいて、その呼び名が愛称として広く認知され使用されています(日本では〝ジスペケ〟と略されました)。それを逆にメーカーが車名にしたのが、このジクサーなのです。このネーミングを採用したのにはメーカーの車両に対する想いも









高めだけど細く絞られたシート。車重の軽さで足つきへの不安はまったくなく、バーハンドルだけどわずかに前傾姿勢なポジションでスポーツ走行も楽しめそうです！



両足を下ろすとカカトがちょっと浮く程度で車体を支えるのに不安はありません。シートが前後にそれなりの長さがあるで、ポジションの自由度も高いです

詰まっていることが読み取れます。そう、ジクサーは、小排気量モデルながらスポーティさもしっかりと追求されたモデルなのです。

ジクサーが国内デビューをはたしたのは2017年の春、約3年前のことになります。当時、話題になったのは、そのスポーツテイストを追求した装備と車両価格のバランスでした。いわゆるコストパフォーマンスの高さが一つの魅力となっていたのです。そして、この春にモデルチェンジしたニューモデルもその傾向は変わりません。

モデルチェンジによってもっとも印象が変わったと感じるのは、スタイリングのスポーティさではないでしょうか。LEDの採用によりヘッドライトのボリューム感が減ったことで、フロンまわりがより軽やかになりました。さらに後ろ上方へと伸びるラインをより強調することで軽快感が増し、よりスポーティさが増している感じです。

個々のパートに目を移していきましょう。まずエンジンですが、燃焼効率を高め、エンジン内のフリクションロスを極力軽減することでパワーを落とすことなく低燃費を実現したSEP（スズキ・エコ・パフォーマンス）を採用しています。その結果、より実用的なWMTCモードの燃料消費率は51km／ℓという数値になっています。燃料タンク容量が12ℓなので、机上の計算だとノン給油で600km以上を走れてしまうことになります。

前後ディスクブレーキでフロントにはABSを採用し、リヤショックはプリロードの調整ができるなど走行性能も考慮したパッケージと139kgと軽い車体によって、車体をコントロールして走るということをより楽しいものにしてくれるはずです。

スポーティさについてここまでは触れてきましたが、ジクサーのもう一つの魅力は実用性の高さをあわせ持っていることです。タンデムシートのグラブバーは、荷かけに使えるよう裏側にリブがあったり、チェーンメンテナンスなど、整備時に重宝するセンタースタンドもあります。そう、日常の足からツーリング、スポーツ走行まで幅広いシーンで楽しめるバイクなのです。その懐の深さは日常をよりエキサイティングにしてくれることでしょう。



細身のスポークを組み合わせ、軽快な印象を見る者に与えるホイール。急ブレーキ時にも車輪がロックしないよう働くABSを採用していることで、安心感は高まる



速度、エンジン回転数、距離といった基本情報に加え、時刻やギヤポジション、さらにはオイル交換時期までも表示するフル液晶のデジタルメーターを採用します



しっかりとしたグラブバーを採用。タンデムシートは工具を使うことなく外すことができ、下のスペースには車載工具があるので、もしもの時に心強いです



タンデムシートがライダーシートの腰当てとして機能。ライダーシートはそこそこの厚みがあるので、長距離を走ってもオシリが痛くならないクッション性が望めます



サイドスタンドに加え、最近のモデルではめずらしいセンタースタンドも装備。チェーンのメンテナンスをするときなど重宝します。車体が軽いので簡単にかけられることでしょう



リヤショックのスプリングが赤いことで、車体の差し色となって見ためのの印象を引きしめてくれます。プリロードは7段階で調整できるので、体重が軽い人はぜひ調整を

COLOR VARIATION



グラススパークルブラック

ソニックシルバーメタリック
×グラススパークルブラック



グラススパークルブラック×トリトンブルーメタリック



クラスを超えた軽快感と高い快適性を追求

広報さんのオススメポイント

●私のNo.1オススメバイクはこちらのZ400。とくにこのオレンジのカラーリングとZのスタイリングの組み合わせは、街中でも注目の存在!

●250クラス並みの足つき、軽さ、取りまわしのよさ、けれどもアクセルを開ければ400ccの力強いパワーを発揮するこのモデルは、日常からツーリングまでモーターサイクルライフのパートナーにぴったりです。

●また、ぜひ体感いただきたいのがクラッチレバーの軽さです。ニューアシスト&スリッパークラッチというシステムがツーリング時の左手の疲れを大幅に軽減します。

メーカーイチオシ! バイクセレクション 05

Kawasaki Z400

250と共通の車体に400ccエンジンをマッチさせたストリートマシン。エッジの効いたスポーティなスタイリングは、文字どおり〝SUGOMI〟のあるフォルムを具現化。さらに使い勝手のよさも追い求める

㊟カワサキモータース ジャパンお客様相談室 0120-400819 ㊞https://www.kawasaki-motors.com

spec.●全長×全幅×全高:1,990×800×1,055(㎜)●軸間距離:1,370㎜●シート高:785㎜●車両重量:166kg●エンジン型式・排気量:水冷4ストローク DOHC 4バルブ並列2気筒・398㎤●最高出力:35kW(48ps)/10,000rpm●最大トルク:38N・m(3.9kgf・m)/8,000rpm●燃料タンク容量:14ℓ●燃費(WMTC):24.8㎞/ℓ●タイヤサイズ:110/70-17(F)・150/60-17(R)●価格:68万2,000円(税10%込)

見ためから想像できないフレンドリーさが魅力

Zは1000から125までラインナップするカワサキのネイキッドスポーツブランドです。そのシリーズに昨年新たにZ400が加わりました。

ガソリンタンク前側にボリュームを持たせ、随所にエッジを活かしたそのスタイリングは迫力があり、かつシャープさも持ち合わせています。シリーズ共通となるクラウンチングフォルム、低めに設定されたヘッド





シートが細く、まっすぐ足を下ろせてステップとの干渉もなく足つきは良好。車体が軽くてハンドルがよく切れるため、小柄な女性でも取りまわしに問題ないでしょう



シートは細身で薄いけれど、低反発ウレタンのモチモチした座り心地は良好。停車時に足も出しやすく、ポジションの自由度も高い。タンデムシートがバックレストになります

ライト、車体後方＆上方へと伸びるラインを車体の随所に取り入れ、さらにテールまわりが跳ね上がったスタイリングは、カワサキが提唱する〝SUGOMI〟を具現化したものになります。

見ためにはボリューム感があるのですが、おもしろいことに実際にまたがってみると、400ccクラスにしたら意外とコンパクトなことに気づくはずです。その理由は、Z250と共通の車体だからです。裏を返せば、同じ車体で2通りの選択ができるということになります。400は当然排気量が大きいぶんパワフルな走りを楽しめます。対して250は車検がなかったり燃費がよかったりとコストパフォーマンスがいいとうメリットがあります。また、「400ほどパワフルじゃなくていい」という人もいるでしょう。そんなバイク選びができるのもZシリーズの魅力になっているのです。

さて、コンパクトな車体は、当然ながら軽さにつながります。車重は166kgと250ccクラスなみになっていて、このことは軽快な走行性に貢献するだけじゃなく、取りまわしといった日常的な使い勝手のよさにつながるのです。また、軽さに貢献しているトレリスフレームは、なんとカワサキのフラッグシップモデル、ニンジャH2からインスパイアされたものです。メーカーの誇るトップモデルと同じ構造が取り入れられていることは、所有欲を高めてくれることでしょう。

エンジンは、乗りやすくなるようにさまざま工夫がこらされているのですが、ただ走行性能を追い求めるだけでなく、エアクリーナーボックスの上ブタの剛性を最適化することで、加速時の高揚感を演出するクリアな吸気音をライダーが聞けるような工夫もこらされているのです。

乗りやすさの追求では、アシスト＆スリッパークラッチを採用することで、クラッチレバーの操作が軽くなり、それが疲労軽減につながります。細かなところではラジエターファンカバーの装備でラジエターの熱気がライダーに当たらないようにしています。夏場にはその恩恵を大いに感じられることでしょう。このようにZ400は、そのオラオラ系のルックスからは想像し難い、ライダーを気づかうことのできる繊細さも持ち合わせたモデルなのです。



COLOR VARIATION

メタリックマットグラファイトグレー
×メタリックスパークブラック



キャンディスチールファーニスオレンジ×メタリックスパークブラック



ホイールは軽量な5本スポークタイプ。ABS装備のブレーキは310㎜径ローターのシングルディスクを装備。シングルながら高い制動力が期待できます



コンパクトな丸形のメーターパネルには、デジタルスピードメーターとギヤポジションインジケーター、オドメーター、デュアルトリップメーター、燃料計、時計などを多彩に表示



セパレートタイプのシートを採用しスポーティなイメージに仕上がっています。ライダー側シートは積極的なスポーツライディングにも対応しつつ快適性も追求しています



手前をスリムな形状としてニーグリップ性を高めている燃料タンク。容量は14ℓで、満タンで300㎞以上走行できるので、ツーリングにも不安はないでしょう



ツーリング時の荷物の積載に重宝する荷かけフックは、タンデムシート下部の両サイドに2ヶ所ずつ装備してあります。ストレッチコードなどで簡単にバッグを固定できます



キーロック式の着脱式タンデムシートの下は、2段式の収納スペースになっていて、上段にETC車載器、下段にウエスなどを入れておけるスペースが確保されています



見ためのアグレッシブさから想像しがたいフレンドリーさ

メーカーイチオシ! バイクセレクション 06

Kawasaki Ninja 250

バイクからクルマまで、今どきのスポーティな乗り物に用いられる曲面のなかにエッジを効かせたデザインをまとったフルカウルスポーツ車。そのルックスとは裏腹なライダーフレンドリーなところも魅力の一つ

問 カワサキモータース ジャパンお客様相談室 0120-400819
HP https://www.kawasaki-motors.com

spec. ●全長×全幅×全高：1,990×710×1,125(㎜) ●軸間距離：1,370㎜ ●シート高：795㎜ ●車両重量：166㎏ ●エンジン型式・排気量：水冷4ストローク DOHC 4バルブ 並列2気筒・248㎤ ●最高出力：27kW(37ps)/12,500rpm ●最大トルク：23N・m(2.3kgf・m)/10,000rpm ●燃料タンク容量：14ℓ ●燃費(WMTC)：26.2㎞/ℓ ●タイヤサイズ：110/70-17(F)・140/70-17(R) ●価格：65万4,500円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●カワガールにとくに人気なのがこちらのNinja 250。レーシーなこのバイクに颯爽とまたがりワインディングを駆け抜ける姿はまさにプロライダーそのもの。

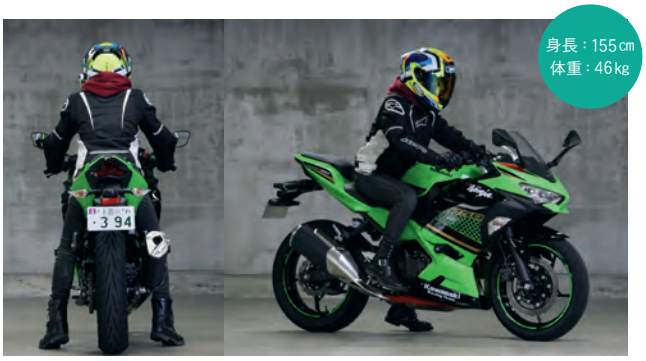
●とくにオススメなのが、シャープなヘッドライトカウルとLEDヘッドライトの組み合わせです。するどい顔つきの中に見える愛らしさが、あなたのお気に入りの1台になること間違いなし!

●次のオススメポイントは、軽量で足つきのいい車体とスポーティな見ためなのに快適で取りまわしやすいハンドルポジション。長距離ツーリングから街乗りまで使い勝手抜群の1台です。

走りを楽しむための快適性が追求されたモデル

250ccクラスのニンジャがこの世に登場したのは2008年で、そのころは車体全体がカウルでおおわれたフルカウルモデルはほとんど新車販売されていませんでした。また250ccでも車両価格がどんどん高くなる一方でした。そんな中、フルカウルをまといながらも、低価格で発売となった初代ニンジャ250Rはビッグヒットモデルとなりました。そして、他社がニンジャを追





足は土踏まず手前までつくので車体を支えるうえでも安心感は高い。ステップへの干渉もなくストレスフリーでした。取りまわしも軽くていい感じでした



グリップ位置は高めながら、ハンドルの角度が絞られていて伏せやすく、コンパクトにまとまったスポーティなライディングポジションも作りやすいです

いかけるようにフルカウルモデルをラインナップに加えたことで、今に続く250ccフルカウルのカテゴリーが形成されたのです。そう、ニンジャはこのカテゴリーにおけるパイオニアなのです。そして、パイオニアとしてカテゴリーをけん引するかのように、これまでに大きなモデルチェンジを2回して、時代に合った進化をしてきました。

現行モデルは、2年前、誕生から10年という節目の年のモデルチェンジによって誕生しました。激戦区である250ccフルカウルカテゴリーにおいて、ユーザーから選ばれるべくエンジンから車体までさまざまな技術が注ぎ込まれています。その中で、バイクレディにとって気になるであろうところに触れましょう。

まずなんといっても、細部にわたる軽量化によって、166kgという軽さを実現したことです。軽ければ、降りて押したり引いたりする取りまわしがラクになりますし、停車時などにバランスをくずしそうになった時、車体を支えやすくなり転倒のリスクを減らせます。

また、アシスト&スリッパークラッチが採用されていることで、クラッチレバーの操作が軽くなり、操作しやすくなるうえ腕の疲労が抑えられて走る距離が伸ばせるのです。加えて減速時に急激なシフトダウンをしてもリヤタイヤがホッピングしたりスリップしにくくなっています。このようにライダーフレンドリーな方向性もしっかりと考慮されて進化しているのです。

スタイリングも緩やかな曲面の中にエッジの効いたラインが入る今どきのスポーティなデザインを採用しています。そのボリューミーでとがった印象から、乗り手も前傾を強いられるのでは?と不安になるかもしれませんが、グリップの位置を高めにしつつ絶妙な角度にすることで、見ためは車体のスポーティさにマッチした乗車姿勢ながら、乗り手がきつくならないポジションになるよう工夫されているのです。

走行性能から快適性の追及まで、まさに〝ニンジャ〟というカワサキのフルカウルスポーツモデルにのみ付けられるブランド名を名乗るにふさわしい性能が与えられた、ワインディングから街中、そしてサーキットと幅広いシーンで楽しめるはバイクなのです。



セパレートタイプのシートはかなりスポーティな印象を見る者に与えます。低反発ウレタンを使用することで、限られた厚みのなかで快適性を追求しています



アナログ式回転計と液晶モニターを組み合わせたメーターまわり。低燃費走行を促進させるエコノミカルライディングインジケーターなど、多彩な表示機能を持っています



ツーリングなどでの荷物の積載に便利な荷かけフックを、リヤシート下とタンデムステップステーで計4ヶ所装備。実用機能も充実させているあたりもユーザーフレンドリーです



シート下は2層構造になっていて、上層部にはETC車載器、下層部にはロック+αの収納スペースが確保されています。このあたりにも作り手の姿勢が感じられます



星型5本スポークホイールは細いスポークによって実際に軽いだけでなく見ためも軽やか。印象的なペタルディスクを採用するブレーキはABS標準装備となります



リンク比、特性を最適化させたモノショック式リヤサスペンションを装備。5段階のプリロード調整が可能で、体重に合わせたり荷物積載時、タンデム走行時に簡単に調整できます

COLOR VARIATION



メタリックスパークブラック
×メタリックマットグラファイトグレー

パールブリザードホワイト
×メタリックスパークブラック





古さと新しさが融合する オンリーワンクルーザー

メーカーイチオシ! バイクセレクション 07

YAMAHA BOLT ABS

大まかにくくるならクルーザーカテゴリーの１台。とはいえボバースタイルを早くから取り入れ、その独自性をアピール。シンプルかつモノトーンのカラーリングがマッシブな雰囲気を強調しています

㊟ヤマハ発動機 カスタマー コミュニケーション センター
0120-090-819 ㊟https://www.yamaha-motor.jp/mc/

spec.●全長×全幅×全高：2,290×830×1,120(㎜)●軸間距離：1,570㎜●シート高：690㎜●車両重量：252kg●エンジン型式・排気量：空冷4ストロークOHC 4バルブ V型2気筒・941㎤●最高出力：40kW(54ps)/5,500rpm●最大トルク：80N・m(8.2kgf・m)/3,000rpm●燃料タンク容量：13ℓ●燃費(WMTC)：21.2km/ℓ●タイヤサイズ：100/90-19(F)・150/80-16(R)●価格：97万9,000円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●シンプルでバイクらしいデザインは、どんなファッションにもマッチします。乗っている時はもちろん、停めている時も街中に映えるバイクです。

●690㎜のシート高がもたらす抜群の足つき性は、ツーリングはもちろん、街中の走行でも気兼ねなく出かけることができ、バイクに乗る回数が増えること間違いなしです!

●空冷V型2気筒のエンジンが気持ちのいい排気音を奏でます。V型エンジンならではの心地よい鼓動感は、ツーリングをより楽しくしてくれます。

強い個性が感じられるスタイリングが魅力

ボルトが登場したのは2013年のこと。そのスタイルは〝Ultimate Purely Bobber〟究極のボバースタイル〟というコンセプトをもとにデザインされていて、アメリカンと呼ばれていたころのロー&ロングなクルーザーモデルとは一線を画すマッシブなスタイリングが特徴的です。ボバースタイルというのはカスタムスタイルの一つで、1900年代前半にダートトラックレースで走って





足つきはベッタリ。またがって引き起こす際、とくに苦労を感じません。降りて取りまわすより、またがってのほうが足でもしっかり車体を安定させられ安定感があります



低めのシートは、オシリを包み込むような形状でスッポリはまります。そのぶんハンドルが遠く感じ、腕は上がり気味。両足を出してもヒザが曲がるくらいだけど、取りまわしは重くて大変

いたバイクがモチーフになっていて、余計なモノをそぎ落として軽くすることによって走りを高める改良をしたことからはじまったスタイルとのこと。実際のスタイル的な特徴は低いハンドル、短く切られたリヤフェンダー、短い車体、サドルシートといったところです。

ボルトはステップがクランクケースの前側に位置するフォワードコントロールではなく、クランクケースの横あたりに位置するミッドコントロールになるので、ライディングが乗り手の体格に左右されにくい点も一つ特徴といっていいでしょう。また、タンクが溶接の目立たない作りになっていたり、シンプルななかにも丹念に作りこまれているところも作り手のこだわりを強く感じられるところです。

エンジンは、シリンダーのフィンがバイクらしい雰囲気をアピールする空冷タイプのV型2気筒。最高出力を5500㎰で、最大トルクを3000㎰で発生することからも、アクセルを開けて高回転まで回すのではなく、低・中回転域を使ってそのトルク感を楽しむエンジンといえます。最近は電子制御を取り込むモデルも増えていますが、そういった機能は装備していません。乗り手のライディングテクニックだけが、マシンの動きを左右するシンプルさは、ライダーを成長させてくれることでしょう。そんなエンジンから車体右サイドに流れ出るマフラーは、2in1で太いサイレンサーへとつながり、そのサイレンサーが車体のマッシブ感を高めています。

根本の部分はアナログチックですが、メーターにデジタルを採用したりテールランプがLED仕様だったりと懐古主義にひたりきっていないところも魅力の一つでしょう。

よりスポーティさを増したRスペックもラインナップしていて、こちらはクラシカルなワイヤースポークホイールではなく、12本のスポークで構成されたキャストホイールを採用し、さらにリヤショックはゴールドカラーが視覚的なポイントにもなるリザーバータンク付きです。そのぶん価格も4万6200円高くなっています。どちらの車両を選ぶにせよ、ボルトならではのオリジナリティのあるマッシブなスタイルは、乗り手にも強い個性をもたらさせてくれることは間違いないでしょう。





右ハンドルのスイッチボックスにはメーターの表示を切り替えるセレクトスイッチとリセットスイッチが備えられています。ハザードもいざという時に心強いです



メーターの形状はテールランプと同じモチーフのシンプルな丸型。速度がメインで、その下に時間・総走行距離・区間距離を選択して表示することができます



シートは前後別体式。ライダー側は深く座れる形状で、タンデムシートは五角形で後方が広め。デザインだけでなく座りやすいように座面も形状になっています



シートは先端の細さが際立って足の広がりが抑えられます。またタンクとシートの間はあえてフレームが見えるように間隔が取られてボバースタイルを強調



シンプルなツインショックはクラシカルな雰囲気もかもし出しています。プリロードの調整は5段階で調整できるので、乗り心地が気になったらまずは触ってみたい



左サイドカバーはメインキーで開け閉めできるようになっていて、カバーを外すとフタ付きのケースが装備されています。そのなかには車載工具が入っています



ファッション性の強さもスクランブラーの強み

DUCATI
SCRAMBLER SIXTY2

今や大きな潮流となったネオクラシックの流れを引っ張ってきたドゥカティのスクランブラーブランド。その中にあって、普通二輪免許で乗ることのできる懐の深いモデルがこのシックスティ2です

問 ドゥカティジャパンお客様窓口 ☎0120-030-292 http://www.ducati.co.jp

spec.●全長×全幅×全高：2,150×860×1,165(㎜)●軸間距離：1,460㎜●シート高：790㎜●車両重量：183kg●エンジン型式・排気量：空冷4ストロークデスモドロミック 2バルブL型2気筒・399㎤●最高出力：30kW(40ps)/8,750rpm●最大トルク：34N・m(3.5kgf・m)/8,000rpm●燃料タンク容量：14ℓ●燃費(WMTC)：21.6km/ℓ●タイヤサイズ：110/80-18(F)・160/60-17(R)●価格：92万円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●取りまわしが容易で普通自動二輪免許で乗れるバイクを求めているものの、独自のエモーショナルで楽しい走りをあきらめたくないライダーのニーズに応えているバイクです。

●ドゥカティ スクランブラーのデザインを継承するSixty2は、専用のグラフィックとロゴが装着されたスリムなスチール製タンクによって、見る者に新鮮な印象を与えています。

●ワイドなハンドルバーとロングシートが、快適でリラックスできるライディングポジションを提供。すばらしいハンドリングと路面を問わない走る楽しさを実現。ブレーキにはABSが標準装備されています。

スケールダウンではないしっかりとした作り込み

今やドゥカティのもう一つの顔として、すっかり定着したブランド・スクランブラー。そのファーストモデルである800ccシリーズがデビューしたのは2015年、今から5年前のことです。ヨーロッパを起点として広がり、今や世界的なストリームとなったネオクラシカル路線。そのパイオニア的役割をになったのが、このスクランブラーブランドなのです。





両足下ろして土踏まずまでつくので前後に動くのも簡単です。車重も軽いので立ちゴケの心配もなし。ハンドルがやや高く、広いから座高が低い人は違和感があるかもしれません



硬めのシートで、ギリギリ両足のカカトがつくかな、というくらい。ハンドルは幅が広く高さもあり、タンクの前後も長いので、ヒジが伸びて前にならえみたいな姿勢になります

じつのところ、スクランブラーブランドが初めて登場したのは1962年のことです。オフロードを楽しむライダーに向けたモデルで、排気量の多種展開はされたものの基本的には1スタイルのみがラインナップされていました。ところが、15年に復活したスクランブラーはベースとなるアイコンに加え、クラシック、アーバンエンデューロ、フルスロットルの4種類が一気に発表されたのです。パッと見からどれもスクランブラーだと認識できるのですが、並べて見ればそれぞれにハッキリとした個性がありました。さらにそれらの個性を伸ばすボルトオンで装着できるさまざまなカスタムパーツが同時にリリースされたのです。それまではどちらかというと、同じスタイルのモデルをほかの排気量クラスにも展開する縦の広がりが一般的でしたが、ここまで大胆な横展開はかなりインパクトがありました。バイクがよりファッショナブルになった瞬間だったのかもしれません。

その衝撃の翌年に発売となったのがこのシックスティ2です。そう、お察しのとおり大本のスクランブラーがデビューした62年を車名としたモデルです。最大のポイントは、普通自動二輪免許（中型二輪免許）で乗車できること。加えて、単に排気量の小さいエンジンに載せ替えただけではなく、800ccクラスではアルミ製だったスイングアームをスチール製へと変更したりとトータルバランスがしっかりと見直されているのです。車体を構成するパーツを見てみると、足まわりには、フロント18・リヤ17インチの10本スポークホイールが採用され、ブレーキはフロントに320㎜径シングルディスクローターとこのクラスでは申し分ない2ピストンラジアルマウントキャリパーを組み合わせています。サスペンションもリヤには、プリロード調整できるショックがあてがわれていて、このような作り込みからは〝走りを楽しめるモデルにしたい〟というメーカーのこのモデルに対する意気込みが感じられます。

もちろん兄弟モデル同様に、豊富なカスタムパーツがあるので、それらを用いてファッショナブルに個性を高めることができるのです。まさにライフスタイルの中に気軽に取り入れることができる稀なバイク、それがこのシックスティ2なのです。



プッシュキャンセル型のウインカースイッチは、スイッチを左に3秒間押し続ければハザード点灯となる。上部に備わるのはメーター表示切り替えスイッチです



右側にオフセットされたラウンド型液晶デジタルメーター。タコメーター、オドメーター、外気温、時刻などを表示するほか、給油を告げるカウントダウン機能も備わってます



肉厚でタンデム部分に幅広さを持たせるビンテージルックの一体型シート。柔らかすぎないほどよい硬さは、ストリートライドに必要な挙動をつかめる仕様だといえます



タンクキャップのカバーには、スクランブラーが登場した年を示した〝BORN FREE 1962〟の文字が刻まれます。こういった作り込みが乗り手のテンションを上げてくれます



シンプルなリンクレスのリヤサスペンションを採用していて、車体左サイドに配されたモノショックは、4段階のプリロード調整ができ、体格に合わせられるのです



シートはメインキーを使って簡単に取り外すことができます。シート下には、車体の汚れを拭き取るウエスなどを入れられる、ちょっとした小物入れが用意されています





カスタムテイストに隠されたフレンドリーさがポイント

メーカーイチオシ! バイクセレクション 09

HARLEY-DAVIDSON
STREET BOB

ショートフェンダーにシングルシート、高くせり上がったエイプバー、小ぶりなタンクとカスタムテイストの強いストリートボブ。ただ実際にまたがってみれば意外なほどバイクレディにフレンドリー?!

㊟ハーレーダビッドソンカスタマーサービス ☎0800-080-8080 HPhttps://www.harley-davidson.com

spec.●全長×全幅×全高:2,320×—×—(㎜)●軸間距離:1,630㎜●シート高:680㎜●車両重量:297㎏●エンジン型式・排気量:空冷4ストロークOHV 4バルブV型2気筒・1,746㏄●最高出力:—●最大トルク:145N・m(14.7kgf・m)/3,000rpm●燃料タンク容量:13.2ℓ燃費(WMTC):—●タイヤサイズ:100/90-19(F)・150/80-16(R)●価格:183万5,900円(ビビッドブラック)187万8,800円(リバーロックグレー、パラクーダシルバーデニム)、191万8,400円(ピリヤードレッド×ビビッドブラック)(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●ハーレーの最軽量チョッパー。これぞハーレーなルックスとスポーティな乗り味を両立し、街乗りもロングツーリングも楽チンです。

●軽い! 足つきがいい! お求めやすい価格でもありハーレーデビューに最適。今なら大型二輪免許費用が最大10万円キャッシュバックのプランも。

●ブラックアウトした足まわりと、多彩なカラーバリエーションで見映え抜群! シンプル設計だから、カスタムに挑戦したい人のベース車にもお勧めです。

ノーマルながら強いカスタムテイスト

ハーレー・ダビッドソンのファミリー(シリーズ)構成が大きく変わったのが、2017年の夏でした。それまで、ダイナとソフテイルの2ファミリーだったのが、ソフテイルファミリーに統一されたのです。その新しいソフテイルファミリーの特徴が、完全新設計の従来より34%剛性を高めたフレームに、シートに隠れるように配置されたモノショックサスペンションを組み合わせたシャ









体格的な問題かエンジンやマフラーに足が触れますが、足つきに不安はありません。重量級だけど足つきがいいので、またがったまま取りまわすほうが安定してます



シートの表皮がすべりやすく、前方が高くなっているので、シート後方に尾てい骨を押し付けられる感じ。足が広がるので、カカトまでベッタリついても安定感は今ひとつかも

ーシと4バルブ&ツインプラグ化された新型エンジン〝ミルウォーキーエイト〟です。

すでに導入されて2年半以上が経つニューソフテイルファミリーだけに、さまざまな評判が耳に入ってきますが、それらを整理するとそれまでのモデルと比べてライダーフレンドリーになっているということです。「ハーレーはあこがれるけれど、私にはまだムリ…」とあきらめていた人には、まさに朗報だといえるのではないでしょうか。

さて、今回紹介するストリートボブですが、ラインナップに加わったのは2006年のことで、当時はダイナファミリーの1台でした。そう、すでに15年近く続く歴史ある車両なのです。その特徴は、高くせり上がったミニエイプバー、小径のヘッドライト、ソロシート、ワイヤースポーク仕様のホイールといったところで、いわゆる最近耳にすることが多くなった〝ボバースタイル〟ってヤツです。

近年、ネオクラシックが時流になっていて、ボバースタイルを採用するブランドが増えた感がありますが、ストリートボブはデビューから一貫してボバースタイルを貫き通してきているわけで、まさに「自分、不器用ですから」の名台詞じゃないですが、寡黙な芯の通った男みたいな印象があります。

そんなストリートボブですが、男性に比べて体格が小さい傾向にある女性にもやさしい一面があるのです。まずソフテイルファミリーのなかでは軽量なのです。ボバーはショートフェンダーだったりシングルシートだったりと極カムダをそぎ落としたカスタムスタイルになるのですが、そのぶん実際に軽くなっているのです。さらにグリップ位置がライダーに近くなるエイプバーを採用していること、エアクリーナーボックスの真下あたりにステップが配されるミッドコントロール（クランクケースの一番前あたりにステップが配され、足を前方に投げ出すようなスタイルになるのがフォワードコントロール。当然足がステップに届きにくくなる）なのも体格の小さい人にとってはありがたいことです。

腕が高い位置にくる独特のライディングポジションからイケイケ風な印象があるかもしれませんが、じつはヤサ男のストリートボブなのです。



左ハンドルスイッチボックスのボタンでメーターに表示される情報を切り替えます。ウインカーはオートキャンセルタイプなので、出しっ放しの心配なしです



なんとメーターはハンドルクランプに一体化していて、パッと見はまるで取り払われたかのよう。コンパクトな液晶モニターのみとなりますが、情報量は多いです



パッと見はクラシカルな昔ながらのクルーザーですが、装備はしっかり今どきになっているのです。フレームのネック部分には電源となるUSBポートが設置されています



高くせり上がったエイプバーを採用しています。腕が上がった独特のライディングポジションになりますが、そのぶんグリップ位置がライダーに近くなっているのです



ハーレーらしくベルトドライブになります。チェーンのようなメンテナンスの必要がないのは◎。ワイヤースポークホイールでクラシカルな印象を高めています



適度な厚みが確保されたしっかりとオシリを支えてくれるシングルシートを採用。リジッドフレームぽく見えますが、この下にモノショックが隠されているのです

ビビッドブラック



リバーロックグレー



COLOR VARIATION



バラクーダシルバーデニム



ビリヤードレッド×ビビッドブラック

スプルース





スポーティなシルエットに
クラシカルテイストが新しい

INDIAN MOTORCYCLE
SCOUT BOBBER TWENTY

広報さんのオススメポイント

●スカウトボバートゥエンティーはその名のとおり、ムダを削ぎ落した独特なボバースタイルが特徴です。スタイリッシュなサドルシートやショートリヤフェンダーにアンバランスな太い前後のタイヤが存在感を示します。

●ミニエイプハンドルバーが今までにないユニークなスタイリングをかもし出し、ポジションはゆったりとリラックス。その雰囲気とは裏腹に軽量アルミフレームに100馬力の水冷エンジンで走りはとてもアグレッシブです!

●落ち着いたブラックのほかに、ハデではないシックで美しいカラーバリエーションもご用意。タンクの大きなインディアンヘッドドレスサインでブランドのプライドを物語ります。

数年前から巻き起こっている世界的なネオクラシックブーム。その流れに合わせるかのように登場したクラシカルなボバー・トゥエンティは、クルーザーシーンの新たな波紋になることでしょう

㊊ポラリス ジャパン ㊐https://www.indianmotorcycle.co.jp/

spec.●全長×全幅×全高：2,274×995×1,181(㎜)●軸間距離：1,576㎜●シート高：709㎜●乾燥重量：256㎏●エンジン型式・排気量：水冷4ストローク DOHC4バルブV型2気筒・1,133㎤●最高出力：—●最大トルク：97N・m(9.89kgf・m)5,600rpm●燃料タンク容量：12.5ℓ●タイヤサイズ：130/90-16(F)・150/80-16(R)●価格：187万8,000円～(サンダーブラック)、191万8,000円～(税10%込)

あらゆるシーンに映えるクラシカルなスタイル

インディアンモーターサイクルという社名を聞いてピンと来る人は決して多くはないでしょう。というのも日本国内に数年前まで車両が入ってこなかったため、その名前が浸透していないからです。そんなわけでまずはどんなメーカーかについて触れたいと思います。

会社の設立は1897年までさかのぼり、最初のバイクを作ったのはなんと1901年。それゆえにじつ









数値よりも軽い印象で、すんなり車体を起こせ、またがった状態で前後に移動するのも十分可能です。ハンドルまでは遠い気がするけれど、苦になるほどではありません



大柄な車格のわりには、足を出してもあまり股が広がらず、シート高も低いので足つきは良好。ただ、シートは薄く、硬くてすべるので、座り心地は…。ふんぞりかえるような姿勢になります

はアメリカ初のバイクメーカーだったりします。その後、１９６０年台まではさまざまなモデルを世に送り出し、さらにレースなどでも活躍していました。ところが１９７０年台に一気に失速してしまったのです。１９９８年に一度は復活するものの、その業況はかんばしくなく、完全な復活をはたすのは２００８年まで待たなくてはなりませんでした。２０１０年以降は、どんどんニューモデルをラインナップに加えるとともに、フラットトラックレースでもチャンピオンを獲得するなど、現在では完全復活をとげたと言っていいでしょう。

そんな歴史あるメーカーが２０１７年に発売したスカウト・ボバーをベースに今年、新たにラインナップに加えたのが、今回紹介するスカウト・ボバー・トゥエンティです。

現行のスカウトシリーズがラインナップに加わったのは２０１５年のことでした。専用設計の水冷ＤＯＨＣ Ｖツインエンジンを採用し、元祖スカウトのスポーツマインドを受け継ぐクルーザーながらスポーツテイストが注入された車両は、フロントタイヤのま後ろに位置する大型のラジエターや薄くエッジのたったタンクなど、見ためにもスポーティな雰囲気が現れていました。ちなみにエンジンの排気量は１１３３ccもあるのですが、同社のクルーザー用エンジンは１８９０ccあるので、同社のモデルのなかではミドルクラスという位置付けになるんだそうな。

ここで紹介するボバー・トゥエンティの特徴は、そのネーミングにもあるとおり、ボバーらしくショートタイプのフェンダーに薄型のサドルシートを組み合わせることで、軽快さを強めているところです。加えてタンクサイドに大きくメーカーロゴをあしらうことでワイルドさも加わっています。そして、バイクレディにうれしいのは、ミニエイプバーの採用でしょう。グリップの位置が近くなることで、マシンコントロールがしやすくなるはずです。さらにワイヤースポークホイールを採用することで、クラシカルなイメージを強めている点も見逃せません。時代の流れに沿って、クラシカルなテイストを強めてラインナップに加わったボバー・トゥエンティだけに、市場がどんな反応を見せるのか大いに期待したいところです。



ハンドルがミニエイプバーになるので、上体の起きたリラックスした乗車姿勢を取ることができます。ミラーがハンドルバーエンドに装着されているのも個性的です



アナログのスピードメーターのなかに液晶モニターが組み込まれており、そのモニターには距離情報や水温、時刻などが表示されます。インジケーター類もメーター内に収納



ブラックと素材のツートンになるエンジン。水冷のためシリンダーフィンはなく所々に入るリブが無骨なイメージを強調します。シリンダーに入るロゴがおしゃれです



ハイトのあるタイヤを採用しているため、かなりフロントがボリューミーに見えます。ワイヤースポークホイールによりクラシカルなイメージが強調されています



タンク上面のラインと直線状につながる位置にツインタイプのリヤショックが配置され、デザイン上のアクセントにもなっています。プリロードは無段階調整可能です



しっかりとオシリを包んでくれるサドルシートはかなり薄く、そのシルエットが車体の軽快感アップに貢献しています。座面には〝Indian〟のメーカーロゴが入っています

COLOR VARIATION



バーンニッシュッドメタリック
×ブラックフェード



スモークサージブラッシュ
×ブラックフェード



サンダーブラック



見た目からは想像できない利便性の高さもポイント

メーカーイチオシ! バイクセレクション 11

KTM 390 DUKE

鋭角的なラインを多用したシャープなスタイリングが特徴のスポーツネイキッドモデル・390デューク。ルックスに見合った走行性能もさることながら、そのユーザーフレンドリーな作り込みにも注目

問KTMジャパン ☎03-3527-8885 HPhttps://www.ktm.com/jp/

spec.●全長×全幅×全高:2,020×840×1,100(㎜)●軸間距離:1,357±15.5㎜●シート高:830㎜●車両重量:153㎏(半乾燥)●エンジン型式・排気量:水冷4ストローク DOHC 4バルブ 単気筒・373㏄●最高出力:32kW(44PS)/9,000rpm●最大トルク:37N・m(3.7kgf・m)/7,000rpm●燃料タンク容量:13.4ℓ●タイヤサイズ:110/70-17(F)・150/60-17(R)●価格:64万1,000円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●KTMのテーマカラーであるオレンジをボディ、フレーム、ホイールなどに使用して、とってもおしゃれなデザインに仕上げています。ホワイトも選択可能です。

●コンパクトな単気筒エンジンとトレリスフレームによりスリムかつ、重量も燃料を除き153㎏と軽量なので女性ライダーでもラクに取りまわしができます。

●LEDヘッドライト、TFTフルカラーディスプレイ、BYBRE製ブレーキ、WP製倒立フロントサスペンション、スリッパークラッチ、ライドバイワイヤなど装備も充実しています。

今どきの使い勝手が満たされたコンポーネント

鮮やかなオレンジがひときわ車体を目立たせているKTMのスポーツネイキッドモデルです。最近はだいぶ浸透してきたけれど、まだ知らないという人のためにKTMというメーカーについて少しばかり…。もともとはコンペティショナルなオフロードモデルに力を入れていたのが、最近は幅広いカテゴリーにラインナップを広げているオーストリアのバイクメーカーになります。Moto





両足だと不安でしたが、片足だと土踏まず手前ほどまでが接地し、またがったまま片足でもバイクを前後移動させられる軽さがあるので、片足でも十分支えられるはずです



全体的にスリムなスタイルで、車体も軽いから足つきは良好。サスペンションもほどよく動くし、乗車姿勢もラクだから気軽に乗っていられるし、取りまわしもしやすい！

GPやダカールラリー、AMAモトクロスやモトクロス世界選手権、ハードエンデューロシリーズといったさまざまなカテゴリーのメジャーレースで優勝するなど数々の記録を残しています。そして、オレンジ色がイメージカラーなのです。

今回取り上げる390デュークは、そんなKTMが発売している個性的なデザインのネイキッド、デュークシリーズの1台になります。デュークシリーズは、125から1290まで、6機種がラインナップされていて、そのスタイリングに統一感があることが特徴ともいえます。

390には走りを意識した作り込みがなされていて、エンジンは14年に登場した初代モデルを継承し、各部をリファインして信頼性を向上。クラッチ操作を軽くすると同時に、急激なシフトダウンをしたときにリヤタイヤが跳ねるのを抑えるスリッパークラッチを装備しています。またアクセルには、上級機種と同じくケーブルを使うことなく電気信号でインジェクションの噴射量をコントロールするライドバイワイヤが採用されています。倒立フロントフォークも上級機種と同じ径のモノが採用されていますし、ブレーキもキャリパーがラジアルマウントで、ディスクローター径は320㎜と大径のモノでコントロール性を追求しています。このようにクラスを超えた装備がおごられているのです。

走行パフォーマンスだけでなく、使い勝手や利便性においてもその姿勢は変わりません。

シャープなイメージを強調する薄くとがったヘッドライトにはLEDが採用されています。メーターはTFTカラーディスプレイで速度やエンジン回転数、ギヤポジション、走行距離といった機能に関わるインフォメーションに加えて、ブルートゥースでスマートフォンとペアリングできるオプション〝KTM MY RIDE〟も用意されています。それら画面表示の変更やスマートフォンの操作は左のハンドルスイッチにある十字キーのみでできるようになっています。またハンドルスイッチの一部文字や表示類が発光する仕組みになっているので、暗い中でも安心です。このようなシャープなスタイルとは裏腹なユーザーフレンドリーなところも390デュークの大きな魅力となっているのです。



ブレーキとクラッチの両レバーにグリップからの距離を調整できる機能が付いています。細かなことですが、手が小さいライダーにとってはうれしい装備です



美しいグラフィックのTFTカラーディスプレイを採用。スピードや回転数、燃料計など、さまざまな情報を的確に表示。周りの明るさに反応して色味が変わります



前側の左右が削られて細身に仕上がっていることが足つき性の向上に役立っているシート。タンデムシートはキー操作で外せて、裏側には車載工具がセットされています



メーターの表示変更やABSのセッティングなどは左ハンドルスイッチの十字キーで行ないます。スマートフォンとの連動もこのスイッチでできるようになっています



撮影車両には付いてませんでしたが、前後サスペンションのスプリングを交換することで25㎜シート高が低くなるローダウンキットのオプションも選択可能です



KTMの特徴の一つともいえるパイプを組み合わせたトレリスフレーム。軽量・スリムで高剛性を求めた結果のスタイルです。シートレールは脱着式となっています

COLOR VARIATION

ホワイト





オレンジ



決して尖ってなくていい すべてにおいて及第点であれば

KYMCO
GP125i VCBS

突出した走行性能や装備は持ち合わせていないけれど、ユーザーから求められるに必要なパフォーマンスや利便性を提供する実用性が確保された偏差値ちょい高モデル。何よりその価格がインパクト大です

問 キムコジャパンお客様相談室 0120-046-165 HP http://www.kymcojp.com

spec.●全長×全幅×全高：1,810×705×1,100(㎜)●軸間距離：1,210㎜●シート高：745㎜●乾燥重量：110㎏●エンジン型式・排気量：空冷4ストローク OHC2バルブ 単気筒・124.6㎤●最高出力：6.6kW(9ps)/7,500rpm●最大トルク：9.2N・m(0.93kgf・m)/5,500rpm●燃料タンク容量：5ℓ●タイヤサイズ：100/90-10(F)・100/90-10(R)●価格：未定

広報さんのオススメポイント

●125スクーターの中でもかなり低い745㎜の低シート高で抜群の足つきを実現、ボディもコンパクトで軽いので取りまわしもラクラクです。

●安心のブレーキ"VCBS"搭載。リヤブレーキを強くかけた時にはフロントブレーキも同時に効くので、スリップしにくく安定して減速することができます。

●お財布にやさしい価格設定と充実した装備。世界でも有数の販売台数を誇るKYMCOならではのコストパフォーマンスの高さは必見です。

十分な実用性が提供するエブリデイの快適さ

原付一種の新車販売台数が激減しているなか、販売台数を維持どころか少し伸ばしている傾向にあるのが原付二種クラスです。原付一種のような二段階右折や独自の制限速度がなく、現在の都市部の交通状況にマッチしているところ、さらにはクルマの免許を持っていれば、最短2日で小型限定二輪免許が取れるようになったことも追い風になっているのかもしれません。









思ったよりシートに腰を据えやすくて足つきもいいです。車重もとても軽く、またがったまま移動するのも余裕。シート前方に座るとちょっとハンドルが近く感じました



全体的にキュッとまとまってコンパクトに感じます。シート高も低くて、ステップボードに足を乗せると、ヒザが高く感じます。ただ、ハンドルがワイドなので、きゅう屈感はありません

さて、そんな原付二種スクーターにおいてユーザーからはどんな車両が望まれているのでしょう？　走行性能が高いモノを望む人もいれば、ラグジュアリーさを求める人もいるでしょう、そして〝必要最小限なパフォーマンスと利便性があって、お手ごろであること〟を望む人たちがいるのは間違いありません。そんな価格を優先するライダーに向けた車両がこのＧＰ１２５ｉなのです。

まずはその価格です。現在20万円を切る原付二種モデルはほとんどありません。その中にあって先代モデルが18万円台だったという価格は破格と言っていいでしょう。今回のモデルチェンジによって前後連動ブレーキになったりしたぶん価格はアップするでしょうが、20万円を大幅に超えることないでしょう。

車体に目を移すと、スポーティなルックスはいわゆる昔からの原付スクータースタイルですが、フロントマスクの左右に配された大型のウインカーやテールランプがＬＥＤになっていること、ヘッドライトがレンズカットのないマルチリフレクターだったりする点が今風です。乗降に関しては、センタートンネルのないステップスルータイプのステップボードで足を高く上げる必要がないのでラクです。レッグシールド裏側までボードが伸びているので、足を前方に投げ出すポジションも取れます。またタイヤサイズが最近少なくなった前後10インチなので、そのぶんシート高も低く設定されているし、ステップボードの高さも低くなっています。車体自体も小まわりが利くコンパクトさになります。

利便性に目を移すと、収納スペースはシート下トランクと大型のフロントボックスがあるので、容量的にそこそこ確保されています。また、フロントボックス内には、スマートフォンなどの充電に重宝するＵＳＢ電源もあります。スポイラー風のリヤキャリアも標準で装備されています。

走行性能においても、熟成された空冷１２５ccエンジンとフロントディスク、リヤドラムのブレーキの組み合わせで、街中では十分なパフォーマンスを見せてくれることでしょう。とくにハデさはないけれど、必要最低限を越えたパッケージ。まさにこのＧＰ１２５ｉ、車両価格が安いうえ高いコストパフォーマンスを有したモデルといえるでしょう。


パーリーホワイト


大型の開放型フロントボックスが設置されていて、ペットボトルやグローブなんかをすぐに出し入れできます。ボックスの上にはコンビニフックもあります


メーターはアナログのエンジン回転計と液晶モニターの組み合わせ。液晶には速度、燃料残量、走行距離、時刻が表示されます。普段使いに必要な情報はすべて入ってます


一体型でライダー側とタンデマー側にほとんど段差がないシート。2種類の表皮を使い分けていたり、オレンジのステッチを使っていたりとルックスにもこだわりを感じます


ステップボードはステップスルータイプで乗り降りがラクです。タンデムステップはワンタッチで飛び出すタイプで、バー状なのでタンデマーも踏ん張りやすいのです


スポイラー風のキャリアは5kgまで積載可能。トップケースを取り付けることを考慮した穴が上面に開いているなど、細かなところまでメーカーの気配りがあるのです


シートはメインキーシリンダーの操作で開きます。ヒンジ部にスプリングが仕込んであるので、自動で開いてくれて、手が荷物でふさがっているときなど助かります



COLOR VARIATION

ゴールデンブラック



日々の移動を楽しくしてくれるスタイリッシュさが魅力

メーカーイチオシ! バイクセレクション 13

LAMBRETTA V125 SPECIAL

ちょっとした移動にもこだわりたい。そんなライダーの想いに応えてくれるイタリアンスタイルのスクーター・ランブレッタ。ただスタイリッシュなだけでなく、ヒストリーがあることも魅力になっています

問 サイン・ハウス車両事業部 03-3721-1770(ショールーム) 他https://sygnhouse.jp

spec. ●全長×全幅×全高:1,890×735×1,115(㎜) ●軸間距離:1,340㎜ ●シート高:770㎜ ●車両重量:— ●エンジン型式・排気量:空冷4ストローク 単気筒・124.7㎤ ●最高出力:7.5kw(10ps)/8,500rpm ●最大トルク:9.2N・m(0.93kgf・m)/7,000rpm ●燃料タンク容量:6±0.2ℓ ●タイヤサイズ:110/70-12(F)・120/70-12(R) ●価格:41万円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●なんといってもスタイリッシュ! 伝統ある独特の流線形デザインを活かしながら、現代のニーズに合わせてリフレッシュさせたスタイリングがおしゃれです!

●走りも魅力! モノコックボディならではのカッチリ感がスポーティーな走りを支えつつ、安心感を提供。伸びやかなエンジンでツーリングも楽しいです!

●カスタマイズも! ローダウンも用意され、体格を問わず楽しめるほか、ランブレッタ・ワールドに引き込まれるアパレルやアクセサリが豊かなライフを応援します!

使い続けることを考慮したボディワークも◎

イタリアのスクーターというと、『ローマの休日』に出てくるベスパが代表するようにおしゃれな乗り物というイメージを抱く人が多いでしょう。そして、そんなおしゃれなスクーターブランドして、ベスパと並ぶくらいだったのがランブレッタなのです。きっと〝ランブレッタ?〟となる人は少なくないでしょう。なぜならベスパはずっと販売が続いていたのに対して、ランブレッタは19





シートが意外と高い印象だけど、ローダウンで少し緩和され、ツマ先だけど両足を着くことができました。走行時、オシリを置く位置の自由度は高いです



シート高が高くて座面も広いので、停車して足を出すときにはオシリを前にずらし、イスから立ち上がるようなイメージ。深く座ったまま足を出すと、ツマ先ツンツン立ちになります

７０年代の頭に、イタリアでの生産が終了してしまったからです。そのため一部のコアなファンのみが知る存在になってしまっていたのです。ところがそのランブレッタが、復活をはたしたのです。それももともとのメーカーであるイノチェンティが再び手がける形で。そして、その復活して発売となったモデルがこのＶ－スペシャルになります。

　このモデルの一番のポイントは、そのスタイリングでしょう。１９５０年代から70年代頭にかけて生産されていたＬ－やＴＶといった人気モデルのスタイリングをオマージュしつつ、現代的なデザインへと落とし込まれているのです。そのため、古いランブレッタを知っている人が見ても「あっ、ランブレッタだ」となりますし、知らない人が見れば〝レトロ感のある斬新なスタイルのスクーター〟となるのです。

　そのスタイリングを形成するボディは昔と同じくスチールを使ったガワで車体を構成していくモノコックスタイルが取り入れられています。そのため樹脂製のボディを使った車両とは一線を画す質感があるのです。またボディ全体が塗装されているので、年月が経っても日焼けによる色落ちが起きることもありません。そのあたりの作り込みは、スタイリングを大事にするイタリアならではだと感じさせられます。

　走行性能に関しては、実績のある空冷４ストロークエンジンに前後ディスクブレーキを組み合わせてあるので、乗り手が不安になるようなことはないはずです。

　ここで紹介するのは１２５になりますが、同じボディを用いて、１６８・９ccのエンジンを積んだ２００と49・５ccのエンジンを積んだ50がラインナップされていて、それぞれが46万円と39万円という価格設定になっています。それゆえ自分のライフスタイルに合わせて、排気量を選べることもＶ－スペシャルシリーズの魅力といえます。

　また、撮影した車両は、モトソニックファクトリーによりローダウンされていて、さらに前後のキャリア（バッグも）にバンパー、スクリーンが追加装備されています。こういった利便性を高めるパーツが用意されていて、それらを使ってオリジナリティを高められることも、この車両の楽しみといえるでしょう。



フロントボックスの容量は少ないですが、USBの電源ソケットが用意されていたりと今どきの使い勝手に合わせた仕様になっています。盗難防止用のスイッチもあります



速度をアナログで表示し、その下に液晶モニターが配され、エンジンの回転数、走行距離、時刻などが表示されます。バックライトの色を変えることができます



薄手のシートですが、クッション性はあります。パンツのようにタグが付けられていたり、黒い表皮に赤いステッチが入るおしゃれな見ためもポイントでしょう



ほぼフラットなライダー用ステップボードは足を置く場所の自由度が高いだけでなく、乗り降りもしやすいのです。タンデマー用の足置きもボードタイプになります



シート下はトランクとガソリンタンク。トランクはヘルメットが1個入る程度の容量が確保されています。ガソリン給油口のキャップもしっかりデザインされています



シートの先端部分に引き出すタイプのコンビニフックが用意されています。使用しなければフックとはわからないデザインになっていて、そういったところもおしゃれです

COLOR VARIATION







大型タンクとオフ系装備でたくましくなったMATTの新顔

メーカーイチオシ! バイクセレクション 14

MUTT MOTORCYCLES
MASTIFF250

バイク製作にとどまらず、バイクを取り巻くライフスタイルも提案する。MUTT Motorcyclesが世界中で愛される理由はそこにあります。デニムを履き込むように、カジュアルなスタイルと自分だけのこだわりを楽しむ。それこそがMUTTなのです

㊟ ビーシーアイ ㊢http://www.muttmotorcycles.jp/index.html

spec.●全長×全幅×全高:2,010×800×1,070(㎜)●軸間距離:—●シート高:780㎜●乾燥重量:130kg●エンジン型式・排気量:空冷4ストローク 単気筒・249㎤●最高出力:15.7kw(21.3ps)/—●最大トルク:20N・m(2.04kgf・m)/—●燃料タンク容量:17ℓ●タイヤサイズ:110/70-18(F)・120/70-18(R)●価格:67万1,000円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●都市部から旅先まであらゆるシーンに溶け込むカスタムスタイルで、オーナー様向けにご購入後もお楽しみいただけるようなスタンプラリー企画をご用意しております。

●Mastiffは従来モデルより大きな17ℓタンクを採用したことで、約600㎞以上の走行をこなすこともできるため通勤から旅まで用途を選びません。

●巡行距離とスタイルで、オーナー様にはさまざまな趣味のツール、つまり"遊び"のパートナーとして連れ出していただきたい。

タンク容量を増やし航続距離もアップ

2019年に日本上陸をはたしたマット・モーターサイクルズ。イギリス・バーミンガムを拠点とするカスタムバイクビルダー、ペニー・トーマスが、カスタムバイク製作でつちかったデザイン力と機械加工技術を活かし、カスタムバイクのようなスタイルとディテールを持つ市販量産車を開発。しかも125ccと250ccという誰もが手に入れやすく、使い勝手のいい小排気量車の









シートが硬くて角ばっていて足をつく位置が外に出てしまい、見た目の印象よりも足つきはよくないかも。車体が軽いので不安には感じません



シートがやや角ばっていて太モモと干渉して足が下ろしにくい。ただし片足ならとくに問題は感じないし、車体も軽いので右で、左でと足を替えて支え直すにも不安はありません

みをラインナップ。いまや世界中のバイクファンにその名を知られるまでになりました。その人気はすさまじく、欧州のシティコミューターの定番はスクーターですが、その一大勢力からシェアの一画を奪い取ったのです。ライフスタイルの変化により、スマホのような無機質な製品より、デニムやレザーといった所有者のこだわりやスタイルが感じられるアイテムが好まれるというトレンドが大きく反映されています。

ここで紹介する〝MASTIFF（マスティフ）〟は、そのMUTTの最新モデルです。ベースとなるのは〝MONGREL250〟。FI採用の空冷単気筒249ccエンジンを、スチール製チューブラーツインショックフレームに搭載します。同じフレームを採用する125ccモデルに対し、スイングアームを延長し直進安定性も高めています。

MASTIFFは、新たに大型燃料タンクを採用。容量を12ℓから17ℓに増やし航続走行距離を伸ばすとともに、そのスタイリングも力強さを増しました。MUTTの特徴である、前後タイヤのボリューム感は維持しながら、力強いブロックパターンのタイヤを装着。エンジン下には、オフロード走行時にフロントタイヤが跳ね上げた石からエンジンを守るスキッドガードを標準装備しています。本格的なオフロード走行を想定しているというより、大型化した燃料タンクとともにMASTIFFの力強いスタイリングを強調するアイテムとなっているのです。もちろんキャンプ場に向かうときのような短距離の未舗装路では、それらのアイテムが強い味方になるでしょうし、腕に覚えがあるライダーならフラットダートを楽しむこともできるでしょう。

低価格な小排気量モデルは今、バイクシーンのトレンドの一つです。購入と車両維持のハードルを下げることで、新規ユーザーやリターンライダーの需要を活性化させました。しかしMUTTのように、カスタムバイクビルダーが車両開発の中心にいるという例は、ほかにはありません。だからこそMUTTは、一貫したスタイルが貫かれているのです。そして新たにラインナップに加わったMASTIFFは、そのMUTTの世界をさらに広げる存在となることでしょう。





ビンテージスクランブラーが採用していた、前車が跳ね上げた飛び石でヘッドライトが割れてしまわないためのヘッドライトグリルを、現代的な解釈でデザインしセットアップ



コンパクトな丸型スピードメーターとLEDインジケーターは、オリジナルマウントを使用しアッパーブラケット前方に配置され、シンプルなハンドルまわりを作り上げています



燃料タンクは、容量17ℓ。MUTTらしいスタイルを維持しながら、ベースモデルのMONGRELから5ℓも容量をアップ。モンツァスタイルのキャップもセットになります



前後18インチのスポークホイールもMUTTの定番アイテム。ボリューム感のあるタイヤをチョイスしてマッチョなスタイルを構築する。MASTIFFはブロックパターンのタイヤとなります



シート形状はもちろん、ダイヤ柄の表皮もMASTIFFのためのオリジナルアイテム。ブラウンカラーのグリップとコーディネイトしたブラウンカラーをチョイスしています



通常、飛び石や路面の岩などからエンジンを守るために製作されるマッドガード。本格的なオフロードバイクの基本アイテム。それをあえてポリッシュ加工し、スタイリッシュにセットアップ



自転車と原付のいいとこ取りモビリティ

メーカーイチオシ! バイクセレクション 15

FUKI PLANNING
FK310bb20

ポケットバイクから始まったフキプランニングは、唯一の国産モペッドメーカー。パワーを重視しない大人向けの原付として開発したモペッドを、ファッション性と実用性をかね備えた特別な存在へ進化させ続けています

㊟フキ・プランニング ✆045-922-6011 ㊤http://www.fuki.co.jp

spec.●全長×全幅×全高：1,520×580×880～980(㎜)●軸間距離：—●シート高：700～800㎜●半乾燥重量：27.5㎏●エンジン型式・排気量：空冷2ストローク単気筒・31.7㎤●最高出力：0.59kW(0.8ps)/4,500～5,500rpm●最大トルク：1.47N・m(0.15kgf・m)/3,500～4,500rpm●燃料タンク容量：約1.8ℓ●タイヤサイズ：2.00-20(F)・2.00-20(R)●価格：12万9,800円(税10%込)

広報さんのオススメポイント

●タイヤのサイズが20インチでサドルの位置を低く調整できますので、女性の方や、高年齢の方には、足つき性がいいために立ちコケの心配が軽減されます。自転車走行、エンジン走行、エンジン+ペダルアシストの3通りの走行ができます。いずれの走行中も原付の法令になります。

●車両の重量が通常の原付バイクに比べて約半分以下の28㎏ですので、取りまわしがラクで、自転車走行も普通の自転車感覚で軽快に乗ることができます。ワンボックスカーなどに積んで運ぶのもラクにできます。

●全長が152㎝で重量が28㎏で燃費も1ℓで43㎞走行でき、燃料満タンで約75㎞走行できます。お買い物、通勤など実用や、ブラッと散歩などに快適に使用できます。

自転車でもバイクでもない不思議な存在感

自転車ペダルが付いた原付バイク〝モペッド〟は、エンジンのみの走行、エンジン+ペダルでアシスト、ペダルのみの走行の3パターンでの走行が可能なモビリティの総称です。50cc以下のバイクを〝原動機付自転車〟と呼びますが、モペッドはその起源。自転車にエンジンをダイレクトに搭載した、どこかなつかしいようなビジュアルが魅力です。

そんなモペッドを日本で唯一製





足つきはバッチリ。まったく不安感はありません。身長165㎝のライダーには20インチは少し小さいように見えましたが、実際、自転車と同様にハンドルとサドルの高さを調整できるので、ピッタリ合わせることができました



足つきは文句なしのベタ足！　この足つきであれば立ちゴケ回避は間違いないです。ポジションにきゅう屈さも感じないので、ちょっとそこまで♪　にピッタリかもです

造し続けているメーカーが、フキプランニングで、同社が排気量31・7ccの第1種原動機付自転車（原付バイク）ＦＫ-３１０ＳＴＤを開発したのは１９９９年のこと。パワー重視で若者向けの原付ばかりのなか、いい年になった大人向けのシンプルな乗り物が必要だと考えたことがキッカケだったそうです。そこから改良を重ね、多くの派生車種を発売。ビーチクルーザータイプ（ＦＫ３１０ＬＡⅢ）なども登場し、今では若者にも認知されるモビリティに。

　そんなＦＫ３１０シリーズに、乗りやすさを重視した20インチのｂａｂｙクルーザーＦＫ３１０ｂｂ20が追加されたのです。これまで26インチを基本としていたＦＫ３１０シリーズの、デザインやエンジンスペック、タンク容量はそのままに、一気にコンパクトになった印象のｂｂ20。ハンドルの高さを調整することができるため、小柄な人でも安心して乗ることができます。

　搭載されるＢＥ30エンジンは、31・7ccという一般的な原付のエンジンより小排気量の2サイクルエンジンで、低速・高出力タイプとしてすぐれた登坂加速を発揮。曲線で構成された未来的デザインに、むき出しのシンプルなエンジンという一見アンバランスな組み合わせが、〝おしゃれ〟というより〝ハイカラ〟という言葉がピッタリとはまる印象で、そこにあるだけで古きよき文明開化の時代にタイムスリップしたような、ゆったりとした時間の流れを感じさせてくれます。

　少し心配になったのが、オイルとの混合が必要な燃料の約１・８ℓというタンク容量の小ささでしたが、燃費はカタログ値で43㎞／ℓ。単純計算で約77・４㎞走行可能ということになるため、無用な心配だったようです。ガス欠をしたとしてもペダルをこいで走行できるのがモペッド最大の利点でもあるのですが、それでも気になるという人のためにはオプションで、２・３ℓタンクも用意されているので、変更してもいいかもしれません。

　自転車・バイクどちらで走行する場合も原付一種免許は必須となりますが、ゆったりとした走りを楽しめるＦＫ３１０ｂｂ20は、現代社会では感じることが難しくなった緩やかな時間の流れを体感させてくれる不思議な乗り物です。



左側のハンドルグリップには、リヤブレーキとグリップ式内装３段変速ギヤを搭載。ペダル走行時もエンジン走行時もどちらも自転車感覚でギヤの変更が可能です



右側のハンドルグリップの奥にあるレバーがフロントブレーキ。アクセルは手前のレバーとなっているので、普段バイクに乗っている人は、最初は少し混乱するかもしれません



モペッドバイクFK310用に開発されたBE30エンジンは、31.7ccピストンバルブ式空冷２サイクルエンジン。構造がシンプルで、点検が簡単なのも特徴です



バイク走行時は自動でLEDフロント砲弾ライトが点灯するので暗い夜道も安心。自転車走行時は、タイヤ側に倒すことで発電を開始するダイナモライトで安全基準もバッチリ



センター両立スタンドで、停車時もしっかり自立。20インチタイヤで足つきもよく、安定感抜群です。車重も28㎏と軽めなので扱いやすく、すべてが手軽な印象です



シートは自転車のサドルそのもの。高さも簡単に調整可能で、オプションでリヤキャリアも用意されているので、買い物など荷物を積みたいときも快適に使用できます

COLOR VARIATION



ピアノブラック



ホワイト



ボルドー

ライディングウエアを選ぼう!!

バイクに乗ることを考えてさまざまな工夫やスタイルが見られるライディングウエア。実際にどんなタイプが出ているのか、チェックしてみよう

シーズンごとに作りも様変わり

バイク用のウエアにも対応シーズンがあります。初めてウエアを購入するなら、真冬と真夏以外でも着られて対応期間の広い3シーズンタイプがオススメ。それをベースに季節に合わせたモノを増やしていくといいでしょう。



冬向けの場合は、袖や裾などから風が入らないような工夫やシンサレートなど防風性の素材、保温性の高い素材を組み合わせた作りになっています



夏向けはナイロン製のメッシュやパンチングレザーなど、通気性の高さが特徴。着脱式の防風インナーなどで、ある程度の涼しい時期にも対応できるモノも多い



1着持っていると便利な3シーズンタイプ。季節に幅広く対応できるよう、ベンチレーション機能が備わっていたり、着脱式のインナーで調整できるモノも

プロテクションは大事!

バイクは体がむき出しで走る乗り物。だから万が一を考えて自分の体は自分で守る対策をとる必要があります。ライディングウエアは、はじめからそういった機能を備えているモノが多く、オプションでプラスできるアイテムもたくさんあるのです。



プロテクターを取り付けられないウエアや一般アパレルのモノを着る場合でも、単体で装着できるタイプがたくさんあるから、必要に応じて各自でプラスして



保護部位の基本は肩・ヒジ・背中・胸部・ヒザ。標準装備の度合いはモデルによって異なり、付属しない場合もオプションで装着用のポケットが備わっているモデルが多い

車種・用途に合わせて選べる

スーパースポーツ、ネイキッド、オフロードなどバイクにはカテゴリーがあり、それらカテゴリーに合うようなさまざまなスタイルのウエアがあります。



スポーティタイプやオールラウンドタイプよりは街に溶け込むデザインのカジュアルなタイプ。モデルによってその度合いは異なるけれど、プロテクションに関して配慮されているモノもある



スポーティなライディングスタイルに特化したタイプ。スポーツモデルのライポジにフィットするカッティングや走行風への考慮など、プロテクション機能も高め





街乗りからツーリングまで幅広く使えるオールラウンドスタイル。レザーからテキスタイルまで素材もデザインも豊富で、車種の選択肢も幅広い

ジャストサイズがオススメ!!

サイズが小さすぎると当然きゅう屈。背中や肩が突っ張ってバイクの操作に支障が出たり、疲労につながってしまいます。逆に大きすぎると、走行風でウエアがバタつき、これも疲労の原因となるうえ、ヒジやヒザのプロテクション位置がフィットせず安全性もしっかり確保できません。つまり、大きくても小さくてもダメ。快適&安全に楽しいバイクライフを送るためにも、自分に合ったベストなサイズを選びましょう。





ライディングポジションは体を前にかがめる姿勢になるので、後ろ身ごろの丈によっては腰まわりが出てしまうことに。これも袖の長さと同様、前傾がキツいタイプのバイクほどその傾向がある

ハンドルをにぎると、腕をまっすぐ下ろしている時とヒジの位置がズレるので、袖の長さが短くなってしまうことも。前傾がキツいほどその度合いも大きくなります。また、タイトなジャケットは下に着る服の厚みに影響をうけます







☑ 乗車時のスタイルを考える



ライディングポジションは特殊な姿勢だから、その姿勢を取った時にベストなウエアを選ぶこと。その際、なるべく試着して各ポイントを確かめたいところ





立っているときに余裕があっても、またがってステップに足を乗せるとヒザが曲がって裾が上がるので、そのぶんをも考慮した長さを確保しないと足首が露出…、なんてことに

P39 DUCATI
P40 HARLEY-DAVIDSON
P41 KTM
P41 HUSQVARNA
P42 MUTT MOTORCYCLES
P43 CLEVER
P44 KADOYA
P45 KUSHITANI
P46 NANKAI
P47 PANDO MOTO
P48 ROSSO STYLE LAB/URBANISM
P49 SUGAR RIDEZ
P50 WILDWING

1 77 レザージャケット

Ducati 77 シリーズの名称はジョルジェット・ジウジアーロが有名な Ducati ロゴを作成した年に由来。厚さ 1.0〜1.1㎜の牛革による十分な強度とソフトな快適性を備えたレザージャケットです。ダイネーゼ製で Drudi Performance デザイン。最新の欧州規格適合品なので安全性にも配慮しています。

¥ 6 万 6,102 円
size 42・44・46・48・50
color ブラック×ホワイト

プロテクター
肩・ヒジ・（背中）

2 Company C3 レザージャケット

ダイネーゼ社がドゥカティのためだけに製作するこのジャケットは、ソフトな牛革を使用した都会での着こなしにぴったりのアイテムです。胸元にあしらわれたパッチと、背面と袖にほどこされたレーザーカットとステッチのレタリングが Ducati ブランドであることを印象付けます。こちらも欧州規格適合品でバックプロテクター G1（女性用 別売）の装着が可能なポケットあり。

¥ 5 万 4,898 円
size 42・44・46・48・50
color ブラック×レッド

プロテクター
肩・ヒジ・（背中）

3 Flow C3 ファブリックジャケット

Drudi Performance がドゥカティのためにデザインした、軽量かつ透湿性にすぐれたメッシュジャケットです。さらに、透湿性、防水性、防風性にすぐれた 3 層からなるリムーバブルライナーを備えています。春から夏の暑い時期の着こなしに理想的な一着です。最新の欧州規格適合品。

¥ 3 万 7,584 円
size XS・S・M・L・XL
color ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・（背中）

4 77 ショートスリーブ Tシャツ

¥ 6,009 円
size XS・S・M・L・XL
color ブラック×ホワイト

5 77 スウェットシャツ

¥ 1 万 3,138 円
size XS・S・M・L・XL
color ブラック×ホワイト

4 / 5

Ducati 77 シリーズの名称はジョルジェット・ジウジアーロが有名な Ducati ロゴを作成した年に由来します。Drudi Performance により、非対称デザインと大胆なカラーリングを特徴とする当時のスタイルを取り入れながら、現代的にデザインされています。















※太字は CE 規格　※( ) 内はプロテクターポケットあり

1

シダリ・レザージャケット

メッシュ加工により高い通気性を発揮。上部まで伸びたヒップジッパーでライディングポジションに合わせて調整可能。アーマーポケットなどの機能も満載。素朴な風合いのレザーとレースを思わせるストライプ。コンフォート、クーリング、クラシックスタイルがそろったこのライディンググギアは女性ライダーに最適なアイテム。

¥ 8万7,855円 サイズ XS・S・M・L
カラー ベイバーブルー

プロテクター
（肩・ヒジ・背中）

2

パフォーマンスH-D™One プルオーバー・フーディー

体を涼しく保つ透湿性にすぐれた軽量構造。トレーニングやレジャーで重ね着しやすい一着。

¥ 1万2,974円 サイズ XS・S・M・L
カラー ブラック

3

HD® Triple Vent™ System Adragaレザージャケット

涼しさを調整できる特許取得済のトリプルベント機能で快適。取外し可能なライナーで暖かさも調整可。その他快適なライディングを可能にする機能が満載のレザーライディングジャケット。

¥ 11万8,253円 サイズ XS・S・M・L
カラー ブラック

プロテクター
（肩・ヒジ・背中）

4

メタリック#1スカル・バッファロー・プレイド・シャツ

メタリックゴールドのバックプリントグラフィックが魅力のメタリック#1スカル・バッファロー・プレイド・シャツ。派手すぎない適度な光沢が、このクラシックな格子柄シャツのアクセントに。レーヨン/コットンの混成生地でソフトな肌触りと美しいシルエット。

¥ 1万5,064円 サイズ XS・S・M・L・XL
カラー ブラック×ホワイト

5

レトロアウトライン・Tシャツ

レースの歴史を彷彿させるピンストライプアートが描かれた、レトロアウトライン・Tシャツ。ジーンズやミニスカートとあわせてカジュアルな装いに。

¥ 5,021円 サイズ XS・S・M・L・XL
カラー グレー



Husqvarna MOTORCYCLES



1



リモート ミッドレイヤージャケット

すぐれた通気性と伸縮性を兼ね備えたライフスタイルジャケットです。

¥ 2 万 4,338 円 サイズ XS・S・M・L・XL 色 ブラック×ネイビー

2



オリジン セーター

着心地のいいライフスタイルロングTシャツです。

¥ 1 万 2,161 円
サイズ XS・S・M・L・XL
色 ネイビー×グレー

※太字は CE 規格　※( ) 内はプロテクターポケットあり

問 ハスクバーナ・モーターサイクルズ・ジャパン
03-6380-7020 HP https://www.husqvarna-motorcycles.com

KTM

1



TOURRAIN WP ジャケット

ウォータープルーフ仕様、ハイクオリティなツーリングジャケットです。

¥ 3 万 3,660 円
サイズ S・M・L・XL
色 ブラック×グレー

プロテクター
肩・ヒジ・背中

2



EMPHASIS ジップパーカー

すぐれた撥水性と通気性およびリフレクターを備えています。

¥ 1 万 2,154 円
サイズ XS・S・M・L・XL
色 ブラック



問 KTMジャパン 03-3527-8885
HP https://www.ktm.com

MUTT Motorcycles

1

MUTT
HELLMET Tシャツ

MUTTの人気デザインのTシャツ、100%コットン素材です。

¥ 4,950 円
SIZE S,M,L,XL,XXL
COLOR ブラック・ホワイト・カーキ

2

MUTT
MUTT SHOP Tシャツ

100%コットン素材のベストセラーTシャツ。裾、袖にはMUTTラベルが付いています。

¥ 4,950 円
SIZE S,M,L,XL,XXL
COLOR ブラック・ホワイト

3

MUTT
INNER CITY SPEED FREAKS 2020 Tシャツ

小さなドクロマークがMUTTらしいデザインです。

¥ 4,950 円
SIZE S,M,L,XL,XXL
COLOR ブラック・ホワイト

4

MUTT
SPEED CULT 2020 Tシャツ

色違いもほしくなるNEWデザインです。

¥ 4,950 円
SIZE S,M,L,XL,XXL
COLOR ブラック・ホワイト

5

MUTT
HELLMET CREW スウェット

なめらかで柔らかい手触りの綿100%フリースを使用し、前後には水性プリントがほどこされています。

¥ 9,900 円
SIZE S,M,L,XL,XXL
COLOR ブラック

※掲載アイテムは発売予定のものです。















問ビーシーアイ 他http://www.muttmotorcycles.jp

Clever Vivace



1

CVJ-627
ストレッチデニムジャケット

ストレッチウォッシュデニムと通気性にすぐれたメッシュを使用したシングルライダースジャケット。タイトに着こなしても伸縮性にすぐれたストレッチデニムで快適に着用できます。肩・ヒジ・背中のプロテクターで安全性も抜群です。

¥1万6,280円 SIZE S・M・L
NEW ウォッシュデニム

プロテクター
肩、ヒジ、背中





2

CVG-715S
メッシュグローブ

柔らかく軽いポリエステルメッシュと伸縮性にすぐれた2WAYスパンデクスを組み合わせ、柔らかく手になじみ快適に使用できるグローブです。ゴワツキをおさえ握力の少ない女性でもレバー操作などでの疲れを軽減します。

¥5,280円 SIZE S・M・L
NEW ホワイト×ブラック・ホワイト×ブルー・ブルー×ホワイト・グレー×ブラック・ブラック×パープル・ブラック×ピンク・ベージュ×ブラック

プロテクター
ナックルガード

Standerd Clever

1





CLJ-634
ハーフメッシュジャケット

軽く柔らかい素材を使用することで心地よく着られるマウンテンパーカースタイルのジャケットです。着脱式の防風インナー付きで気温に応じた着まわしアレンジが可能です。

¥1万9,800円
SIZE S・M・L
NEW ブラック・オレンジ・ブルー・グレー

プロテクター
肩・ヒジ・背中　着脱式防風インナー

2



CLP-229
ストレッチコットンパンツ

カーゴパンツスタイルでカジュアルさを出しながらもヒザにはCEプロテクターを装備。プロテクターはヒザ脇のファスナーから履いたまま出し入れできます。今回はさわやかなウォッシュデニムカラーを追加しました。

¥1万5,180円 SIZE SS・S・M・L
NEW デニム・ブラック・カーキ・ベージュ・シルバー・ウォッシュデニム

プロテクター
ヒザ



3

CLG-732
メッシュグローブ

女性らしい可愛いモノグラム柄のメッシュグローブはシンプルなデザインですが、ナックルガードが付いたしっかりとした作り。タッチパネル対応の指先でグローブをはめたままでのスマホ画面操作が可能です。

¥5,830円 SIZE S・M・L
NEW ベージュ・ブラック・カーキ・ブルー

プロテクター
ナックルガード

※太字はCE規格　※( )内はプロテクターポケットあり

問ジーピーカンパニー ☎03-6908-8388 HPhttp://www.grand-prix.co.jp

KADOYA

KL-PTD 1

格子ステッチのハードなデザインながら、やさしい着心地を持つWブレストライダース。安全性を確保しつつ、ストレスのない着用感が得られます。

¥ 6万3,800円 SIZE XS・S
COLOR ブラック

プロテクター
背中

MARKSMAN-LADIES 2

マット・ストレッチメッシュを採用した新感覚の真夏向けジャケット。ダブルライダース・デザインミックスのデザインで、カジュアルに車種を限定せず着用できます。

¥ 2万6,400円 SIZE S・M・L
COLOR ブラック・ネイビー・グレイ

プロテクター
（肩・ヒジ・背中）

THOMPSON-LADIES 3

MARKSMANと同素材を使用した盛夏用ジャケット。トラックトップとライダースをミックスしたデザインに、革使いのアクセントを効かせたカドヤらしい一着。

¥ 2万5,300円 SIZE S・M・L
COLOR ブラック・ネイビー・グレイ

プロテクター
（肩・ヒジ・背中）

KL-S4 4

定評があるソフトステア革を用いた定番人気のシングルライダース。独自のパターンで女性らしい自然なシルエットを形成しつつ運動性を高めています。

¥ 5万9,400円 SIZE S・M・L
COLOR ブラック

プロテクター
背中









KADOYA RIDERS MESH & LEATHER

1

KL-2352
レイジャケット（レディース）

ムラ染めリップストップ素材を表地に採用したフードスタイルジャケット。裏地は吸汗速乾素材でムレを抑え、コットンのよさを損ないません。生地全面の通気性がよく、シンプルでナチュラルなルックスながらにアームホールはストレッチ素材でライディングに適したパターンです。

¥ 4万4,000円　展 M・L
new ブラック・オリーブ

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）



2

KL-2355
アメニタジャケット（レディース）

アウトドアテイストのフードスタイルジャケット。プレミアムな質感の杢調リップストップ素材を採用しています。ジャケット内側のこもった空気をベンチレーションで調整可能です。

¥ 3万8,500円　展 M・L
new グリーン・オレンジ

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）





3

KL-2356
エアーコンテンドジャケット

メッシュ生地にスラブ柄エンボスをほどこしたスポーツライディングジャケット。ナイロン素材とニット素材のハイブリッド仕様で強度と運動性能を高めています。

¥ 3万8,500円　展 M・L
new ホワイト・サックス

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）





4

KL-0629Z
シングルジャケット（レディース）

スタンダードなライダースシングルジャケット。シンプルなデザインで長く愛用できます。プレストパットも装着可能でさまざまな環境下で快適性と安全性を実現します。フルオーダーも可能(18万400円〜)

¥ 12万5,400円　展 M・L
new ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）



5

KL-0672
アンフィニッシュドジャケット（レディース）

ライディングシーンだけでなく、アーバンユースにも活用できます。革にオイルをたっぷりと浸透させた染料で仕上げているので、着込むほどに色や質感の変化を楽しめる一着。フルオーダーも可能(18万4,800円〜)

¥ 12万9,800円　展 M・L
new ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・背中



※太字はCE規格　※( ) 内はプロテクターポケットあり

展クシタニ 053-441-2516 HP http://www.kushitani.co.jp

MOTORCYCLE TOP FASHION LEADER
NANKAI®
FOR GOOD MOTORCYCLE LIFE



1

SDW-4133
アクティブパーカージャケット

全天候型マウンテンパーカージャケット。カジュアルに着こなしが可能で、街乗りメインのライダーにもオススメです。フードは襟の内側に収納が可能なのでライディング時に邪魔にならず快適さを実現します。

¥ 2万4,200円　SIZE WM・WL
NEW ネイビー・ベージュ×ネイビー

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸



2

SDW-4134
エアフィールメッシュパーカージャケット

メッシュとナイロン生地のコンビネーションでカジュアルかつ通気性抜群。暑い時期のライディングでも汗でムレることなく、快適性をしっかりと確保しています。プロテクターもフル装備なので安全性も高く、街乗り、ツーリングに適したモデルです。

¥ 2万1,780円　SIZE WM・WL
NEW ブラック・ネイビー

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸



3

SDW-4132
ハニカムDサマージャケット

スポーティーなデザインでライディングを追求したハイパフォーマンスジャケット。着脱可能な防風インナーを装備し、気温の変化にしっかり対応できる実用性の高さ。背中にはリフレクターを配することで夜間走行時の被視認性を向上させ、安全性にも配慮したジャケットです。

¥ 2万4,200円
SIZE S（レディース兼用）M・L・LL・XL
NEW ホワイト×レッド・ブラック×レッド

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸



4

SDG-7032
ラピッドファイアグローブ

内蔵式のナックルプロテクターと掌底部のパッドで衝撃を緩和し、安全性にすぐれたグローブ。操作性を考慮し指の関節部分にはスリット加工、スマホ対応にするなど実用性にもすぐれたグローブです。

¥ 4,400円　SIZE WS・WM・WL
NEW グレー・レッド・グリーン



5

SDG-7036
LIVEギアグローブ

指部分や掌底部にはパッドを配することで衝撃を緩和させるなど安全性を向上させました。ナックル部はフローティング構造で操作性と快適性を実現し、気軽に使える本格派グローブとなっています。

¥ 4,400円　SIZE WS・WM・WL
NEW ブラック・レッド・ピンク・ライトブルー





Camo Black

1

ありそうでなかった黒を基調としたカモフラ柄のライディングジャケット。ユニセックスのモデルなので、ボーイッシュにカッコよく着ることができます。手首や腰にあるベルトを調整することで、走行時の風の侵入やバタつきを抑えることが可能。防水加工もされているので、急な雨でも安心です。

¥ 5万6,100円 サイズ XS・S・M・他
カラー ブラックカモ

プロテクター
肩・ヒジ



1

CAPO

2

普段着のように見えるデニムのジャケットは、肩・ヒジにプロテクターを装備できるバイク用モデル。シンプルなデザインでコーディネートしやすいから、バイクだけでなく、普段着としても活用できます。細身でプロテクターを入れても目立たないシルエットは女性ライダーにも人気です。

¥ 4万1,800円 サイズ S・M・他
カラー デニム

プロテクター
肩・ヒジ



2

Kissaki Black

3

背面のポケットにグレーでプリントされたワンポイントがさりげないオシャレを演出。ロールアップすると、反射テープが配置されているので、暗い色で統一したコーディネートでもアクセントとして映えます。厚みのある生地なのにストレッチ性にもすぐれ、ライディングにも最適。耐久性の強いダイニーマを採用。

¥ 4万40円
サイズ W23/L32・W24/L32・W26/L32・W29/L32・他
カラー ブラック

プロテクター
ヒザ



3

Kusari Black

4

レザーパンツのように見えるヘビーデューティ 80oz パワーストレッチのローライズスキニーモデル。レザーだとお手入れが必要ですが、ワックスデニムなので、自宅で洗濯も可能です。日本向けに設定された最小サイズは、小柄なライダーにもピッタリ。安全性にすぐれたコーデュラやケブラー生地を使用しています。

¥ 3万2,010円 サイズ W23/L32・W24/L32・他
カラー ブラック

プロテクター
ヒザ



4

Steel Black

5

シンプルで落ち着いたデザインのストレートストレッチデニム。アクセントのリングは、ウォレットチェーンをつけるのにも便利です。裾は開口調整ができ、ブーツアウトで履くこともできます。カッターでもなかなか切ることのできない耐久性の高いダイニーマ生地を採用。万が一の時にもしっかり身体を守ってくれます。

¥ 5万6,100円 サイズ W24/L32・他
カラー ブラック

プロテクター
ヒザ



5

※太字はCE規格　※( ) 内はプロテクターポケットあり



問サイン・ハウス車両事業部 ☎03-3721-1770 HPhttps://sygnhouse.jp
問モトーリモーダ ☎03-6226-2515 HPhttps://www.motorimoda.com

Rosso StyleLab®

1



ROJ-92
プロテクションレギュラーカラーシャツ

女性のためのプロテクションシャツで、チェック柄のカジュアルなデザイン。ツーリングにはもちろんバイクに乗ってお買い物も行けるくらいバイクウエアには見えないデザインなので、街乗りが多いライダーにオススメです。脇にメッシュ生地を採用することで通気性もアップさせ、女性専用プロテクターで安全性も抜群です。

¥ 1万5,180円　size S・M・L・LL
color デニム・レッドチェック・ネイビーチェック

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸



2



ROJ-93
レザープロテクトライダースメッシュジャケット

シングルタイプのレザープロテクトライダースメッシュジャケットは、肩に配されたレザーで、クールだけどエレガントで大人なデザインです。スッキリと着れる女性らしいシルエットで見ためはもちろん、通気性のよいメッシュ生地を採用することで快適なライディングを実現し、着脱可能な防風インナーで気温の変化にも対応できます。

¥ 3万2,780円　size S・M・L・LL
color ピンク・ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸　防風インナー付き

3



ROJ-85
M65 ミリタリージャケット

M65タイプのミリタリージャケットは何にでもコーディネートしやすいシンプルなデザイン。合わせるものによってはかわいくもカッコよくも演出でき、プロテクターを外せば普段着としても使用できるので場面を選びません。ウエストも絞ることができるのでスタイル調整や、アクションプリーツ、ベンチレーションを配することで機能性も抜群です。

¥ 3万580円　size S・M・L・LL
color ブラック・カモ・カーキ

プロテクター
肩・ヒジ・背中・胸

urbanism

1



UNJ-078w
ライドメッシュジャケット

防風インナー付きで使い勝手の広がる、スポーツテイストのメッシュジャケット。裾にはバタツキ防止ベルトや、立体裁断で動きやすく、女性専用パターンを採用することで女性らしいシルエットで着れるデザインに仕上がっています。またプロテクターもすべて女性専用設計になっているので肩が張って見えるなどの悩みも軽減しました。

¥ 2万6,180円　size WS・WM・WL
color ホワイト・ホワイト×ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）　防風インナー



2



UNJ-079w
フードメッシュジャケット

街乗り、ツーリングどこでもなじめるカジュアルなデザイン。女性専用パターンを採用し、プロテクターも女性専用設計になっています。胸部プロテクターも別途取り付けが可能となっていて、立体裁断で動きやすさ抜群です。斜めに配されたメインファスナーは重ね着した際にファスナーが真ん中で重ならぬよう配慮したデザインになっています。

¥ 2万7,280円　size WS・WM・WL
color ソイルグレー・ホワイト・ライトグレーカモ

プロテクター
肩・ヒジ・背中・（胸）



SUGAR RIDEZ

1

テーパード レザーパンツ

着心地のよさやシルエットはイージーパンツのようで、素材はバイク乗りらしく本革シープレザーです。普段穿き慣れた形のパンツですので合わせやすさも感じて頂けることでしょう。腰まわりはややゆったりとしていて、バイクにまたがった時もフレキシブルに動けます。

¥ 2万4,200円　SIZE S・M・L
COLOR ブラック



2

QUEEN ジャケット

エイジング加工をほどこしたラムレザーを使ったダブルライダースジャケットです。普段使いができるほど、着回しがしやすく、本革なのに気軽に着られます。

¥ 3万1,900円　SIZE S・M・L
COLOR ブロンド



3

IZABEL グローブ

シュガーライズのコンセプトでもあるFor Manish Riders な牛革グローブです。バイクに乗る女性がカッコよく、クールにライディングできるようなアイテムをラインナップしています。IZABELグローブはシャーリングで伸びやすさ、動きやすさもあります。

¥ 7,480円　SIZE M・L
COLOR アイボリー×ブラウン・ブラック



2

4

ABBY グローブ

ABBYグローブはインナータイプのナックルガードが入っています。プロテクターは女性にもやさしくソフトタイプです。パンチングが入っておりますが、冬以外の3シーズン使えるレザーグローブです。

¥ 6,380円　SIZE M・L
COLOR ブラック×ブラウン・ブラック

プロテクター
内蔵ナックルプロテクター



5

THE BLACK FLAG ダブルライダースジャケット

植物由来の素材のみでタンニングしたフルベジタブルレザーを採用しております。環境にもやさしく、革の自然な風合いを楽しんでいただけます。着るほどにツヤ、シワ、柔らかさが増していきます。レザーが自分の身体になじんでいく変化を楽しんでください。

¥ 6万500円　SIZE S・M・L
COLOR ブラック

プロテクター
肩・ヒジ・背中



4



3

※太字はCE規格　※( ) 内はプロテクターポケットあり

超厚底シリーズ
（つま先35㎜・50㎜）

超厚底シリーズは、つま先35㎜と50㎜の2タイプのソールを選択でき、35㎜タイプは足つき性と操作性を最大限まで向上させたモデルになっています。50㎜タイプは足つき性が大幅に向上するモデルで、ソールの厚みによって操作性を損なわぬようバイクの操作がしやすい工夫を盛り込んでいます。

¥ 2万7,390円〜
㊎ オーダー品（受注生産）のため、サイズはご相談ください。スワロー・イーグルもオーダー可

プロテクター
くるぶし



1

厚底シリーズ
（つま先25㎜）

2

普段履きの靴に＋αの足つき性をアップさせたモデルで、バイクの操作性も超厚底シリーズと比較すると向上しました。基本的に牛の本革を使用しているため、定期的なオイルアップメンテで長く使用が可能です。ソールの張替えも可能なので、育て上げた足なじみのよい革を使い続けることが可能です。

¥ 1万7,600円〜
㊎ 22.5〜27.0㎝（カラーによりサイズ展開が異なります）
㊐ ブラック・ワインレッド・クレイジーブラウン・ダークブラウン

プロテクター
くるぶし



2



レインブーツ（シューズ）カバー

3

タイヤに使用される天然ラバーを採用し、一体成型することで完全防水と耐久性を実現しました。ラバー素材のすぐれた伸縮性により、スニーカーやブーツなどさまざまなシューズに使用可能です。ぴったりとフィットするようになっているので、装着感を感じさせない自然なフット操作が可能で、靴底にはすべりにくい加工をほどこしてあるため、雨の日でもアスファルトとのグリップ力を発揮します。

¥ 2,750円 ㊎ S・M・L



3

疲れなインソール（中敷き）

4

吸湿発熱・放湿冷却・消臭・抗菌・防臭・制電に効果を発揮するTOYOBOの素材を採用しています。カカトをしっかりホールドする立体成型を独自で開発。疲労軽減の効果も絶大でリピーターがあとを絶たない状態です。人間の足を最適な形でたもつことが可能なので、ライディング時や街歩きなどで非常に疲れにくくなります。

¥ 1,650円 ㊎ S・M・L



4

フラミンゴ 長靴
（つま先35㎜・50㎜）

5

しっかり足のサイズに合わせて履けるよう、サイズ調整用中敷きも付属。ヒモで締め上げることでフィットさせ、サイドファスナーで脱ぎ履きが簡単。一般的な長靴よりも抜群のフィット感で歩きやすく、さらに靴底に鉄芯を入れているので、ステップの踏ん張りや、キックスタート等も難なくこなせるレインブーツとなっています。

¥ 1万978円 ㊎ S・M・L・2L・3L
㊐ ベージュ・ブラック

プロテクター
くるぶし



5

Max Fritz® DESIGNS 別注

ストレッチモトジーンズ

ホワイトを活かして綺麗なまま着るのもOKだけど、若干の汚れは〝味〟と思って着るのもカッコいいぞ!
あえてメンテナンスの時に着ちゃうのもアリ! ガンガン汚してガンガン洗って自分色にしていこう♪


・太ももにはモバイルポケット


・ヒザパッド装着可能


・腰部分には縫い付けスポンジパッドあり
・ヒップポケットにはフラップ付き


・お尻の部分は補強されていて、女性もパンツラインが出にくい!
・股上深めで腰が出にくい仕様


メンズモデル


レディスモデル

品番 MFP-2253／素材 コットン50%・アクリル50%
レディスモデルサイズ ~~40~~/42/44 ¥16,500(税込)　メンズモデルサイズ 46/48/50 ¥17,600(税込)
※サイズの40は完売です。50は残りわずか
※レディスは専用パターンとポケット位置が変更になっています　※画像はサンプルのため、実際の製品と異なる場合がございます

インナー付属





レディスバイク限定カラー

Lady's Bike × GOLDWIN

マルチフーデッドオールシーズンジャケット

充実の機能でライディングに最適なゴールドウインの
マルチフーデッドオールシーズンジャケットに、レディスバイク限定カラーが登場!
女性スタッフ全員が一目ほれしたこちらのネイビー。
バイクに乗っているときはもちろん、普段も着られるおしゃれなデザインです。

オールシーズン対応／防水生地使用(簡易防水)／手洗いOK／軽量／防風・防寒
プロテクター標準装備(肩・ヒジ・胸・背中)　サイズ WM/WL　¥35,200(税込)


袖口アジャスター


裾ドローコード


内ポケット



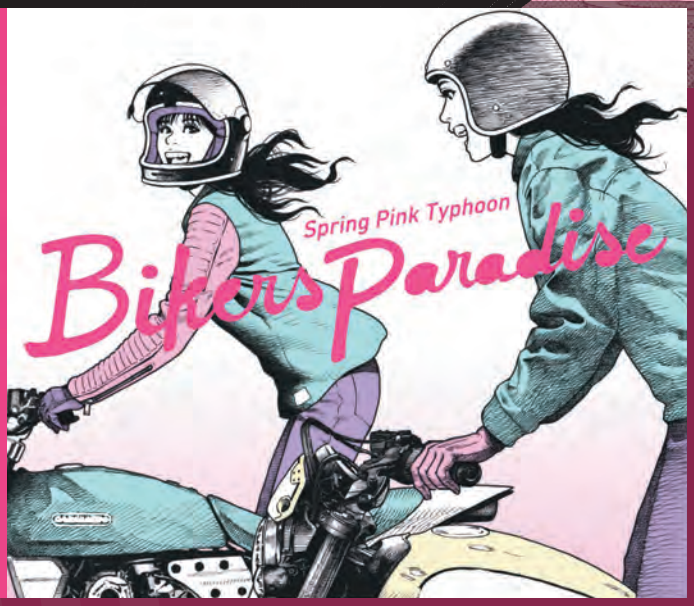
produced by CRETE PLANNING BOX　販売元 株式会社クレタ
https://crete.shop-pro.jp (公式オンラインショップ)



3・4月はバイパラに集まろう!!

https://www.bipa.jp/

BIKERS PARADISE



Contents

- 女性500円優待チケット進呈
- 女性 足湯無料サービス
- 女性向けローダウン車両・ギア展示
- 女性向けバイクレンタル
- ピンクLOGOグッズ他、各種女性向けグッズを販売
- ARTコラボレーション by NOBUKI KATO / OVER ALLs

期間中レンタル819女性向け立ちゴケ補償
『1h-Rental(1時間レンタル)』

Event

開催中! レディスサポートスクエア by レディスバイク

4.19.SUN Lady's Bike撮影会 with レザークラフト体験
(革職人ライダーTOMOプロデュース)

4.26.SUN バイク女子部ミーティング

※随時更新しているので、詳細は公式サイトをご参照ください。

協賛
- 財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
- レンタル819　・株式会社造形社「ガールズバイカー」
- 女性ライダーのコミュニティ「バイク女子部」
- モータージャーナリスト TOMO
- 株式会社クレタパブリッシング「レディスバイク」(敬称略)

"Lady's Bike"もイベントやります! みんな来て来て~!!

開催中! レディスサポートスクエア in バイカーズパラダイス

各所で展開しているレディスサポートスクエアをバイパラで開催しています! レディスウエアのコーディネート展示や、オススメ車両の展示を予定しています。
モーターサイクルショーで見られなくても、バイパラで見られるますよ♪ お楽しみに!



4.19 SUN Lady's Bike撮影会 & レザークラフト体験

(革職人ライダーTOMOプロデュース)

前回同様、今回もこの場所で撮影会やります! 撮影分は全て公式サイトにアップします。いつもの撮影会とは違い、撮影するのはバイパラのカメラマンなので、インスタ映えするカッコいい写真で掲載されますよ~。ぜひぜひ参加ください! そして革職人のTOMOさんによる、レザークラフト体験会も実施! 小物をメインにオリジナルのレザーアイテムを作って、みんなに自慢しちゃいましょう!





TOMO
ライター・ライダー・モデル・革職人など多彩な肩書を持つTOMOさん Lady's Bikeでも活躍中!

※イベント内容は予告なく変更になる場合があります。　※撮影会は天候により時間が変更となる場合があります。荒天の場合は中止いたします。

バイカーズパラダイス南箱根
住　所　〒419-0101 静岡県田方郡函南町桑原1348-2
営業時間　(平日) 9:00～18:00　(土日祝) 7:00～18:00　※冬季(11月～2月)は～17:00
電話番号　0460-83-5819

Gate COST(施設運営協力費)

2輪/3輪	500円(1台/1日)
普通4輪	2,000円(1台/1日)

※施設ご利用1,500円以上で割引制度がございます。